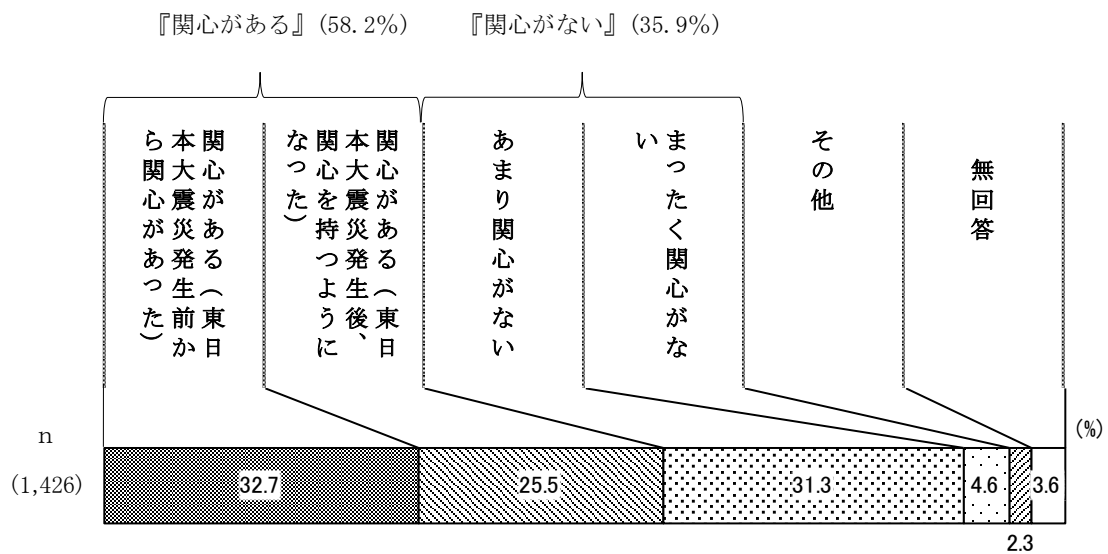


4. ボランティア活動について

(1) ボランティア活動への関心の有無

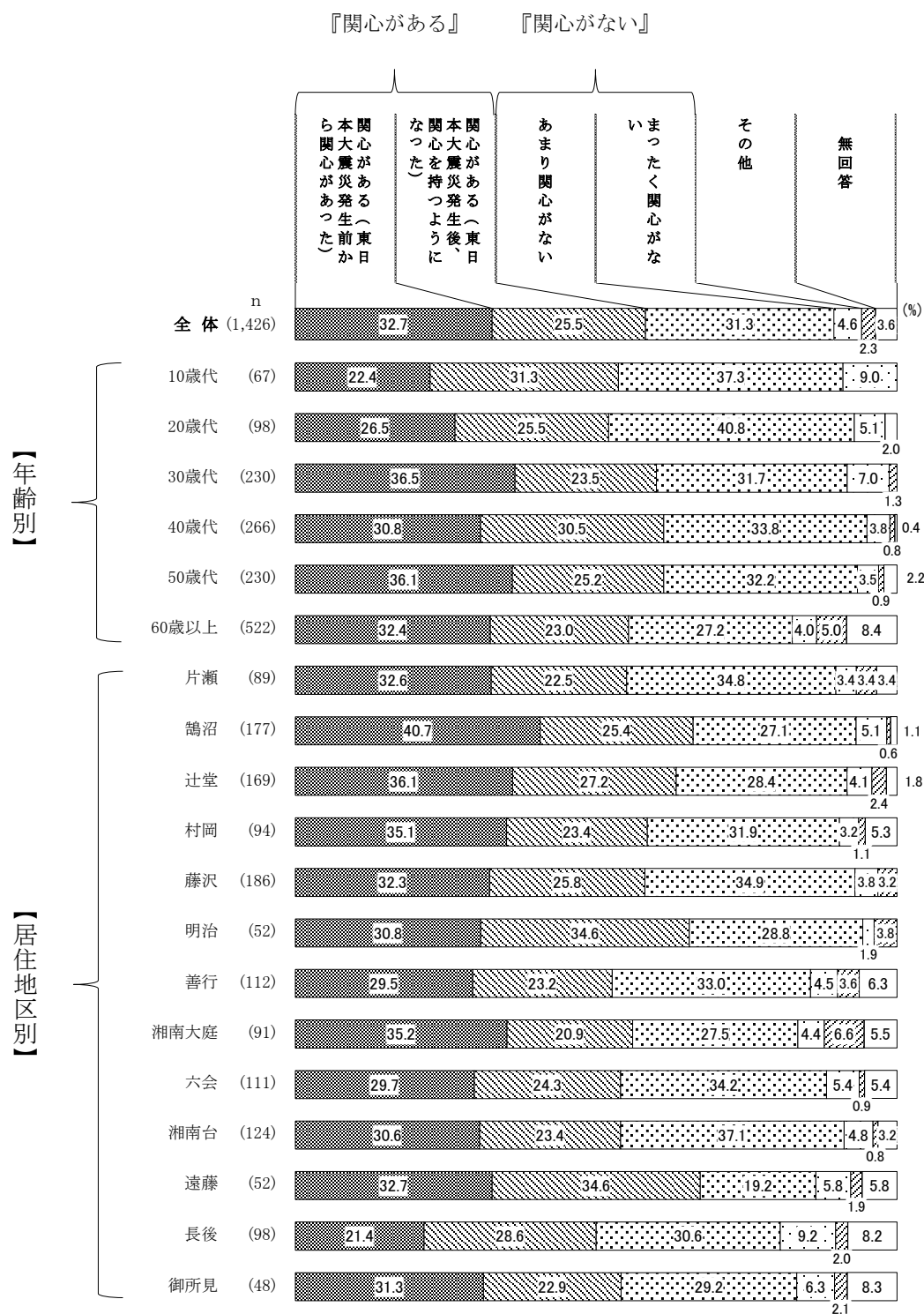
問4-1 あなたはボランティア活動に関心がありますか。(一つに〇)

【図表60：ボランティア活動への関心の有無】



ボランティア活動への関心の有無については、「関心がある(東日本大震災発生前から関心があった)」が32.7%と最も高く、「関心がある(東日本大震災発生後、関心を持つようになった)」(25.5%)を合わせた『関心がある』は58.2%となっている。

【図表61：年齢別／ボランティア活動への関心の有無】



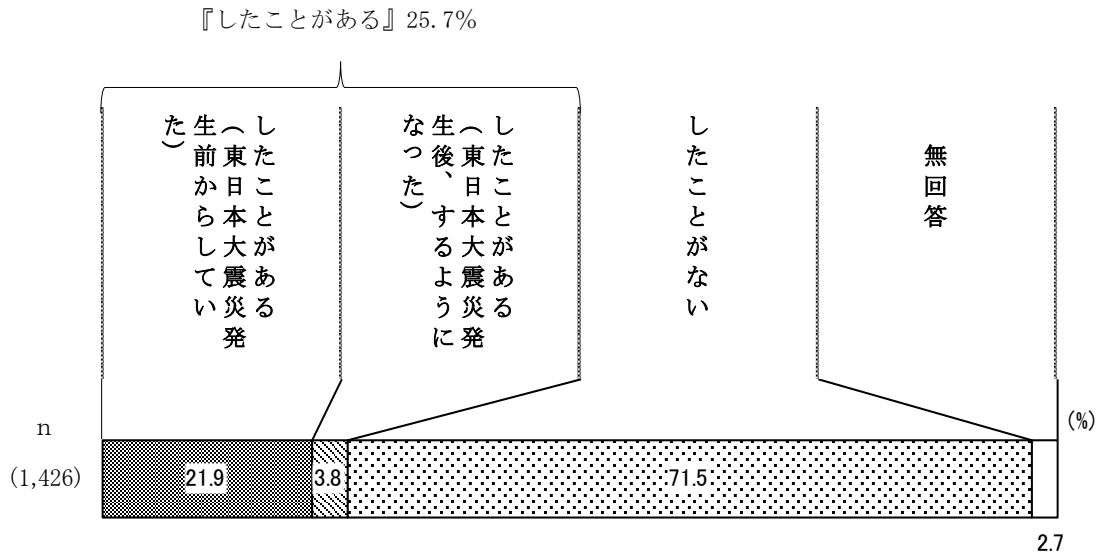
『関心がある』を年齢別で見ると、30歳代（60.0%）、40歳代（61.3%）、50歳代（61.3%）が6割を超えて高くなっている。

『関心がある』を居住地区別で見ると、鵜沼（66.1%）、辻堂（63.3%）、明治（65.4%）、遠藤（67.3%）が6割台半ばと高くなっている。

(2) ボランティア活動の経験

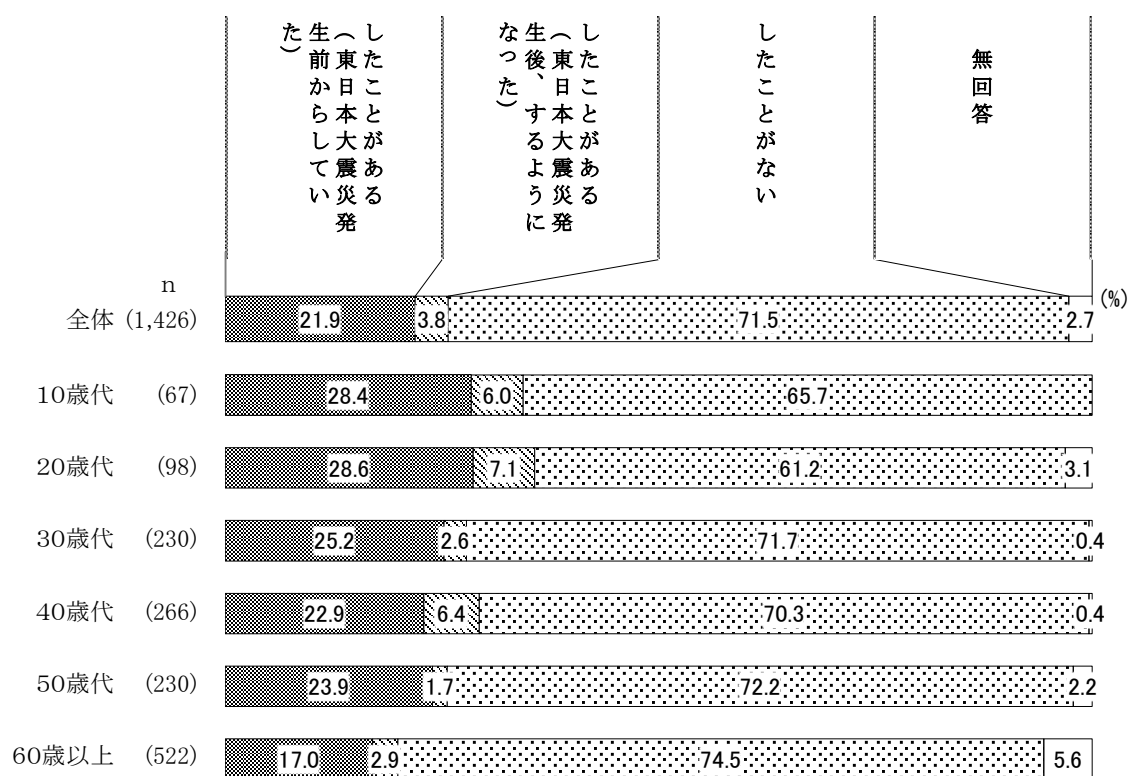
問4-2 あなたは、ボランティア活動をしたことがありますか。(一つに○)

【図表62：ボランティア活動の経験】



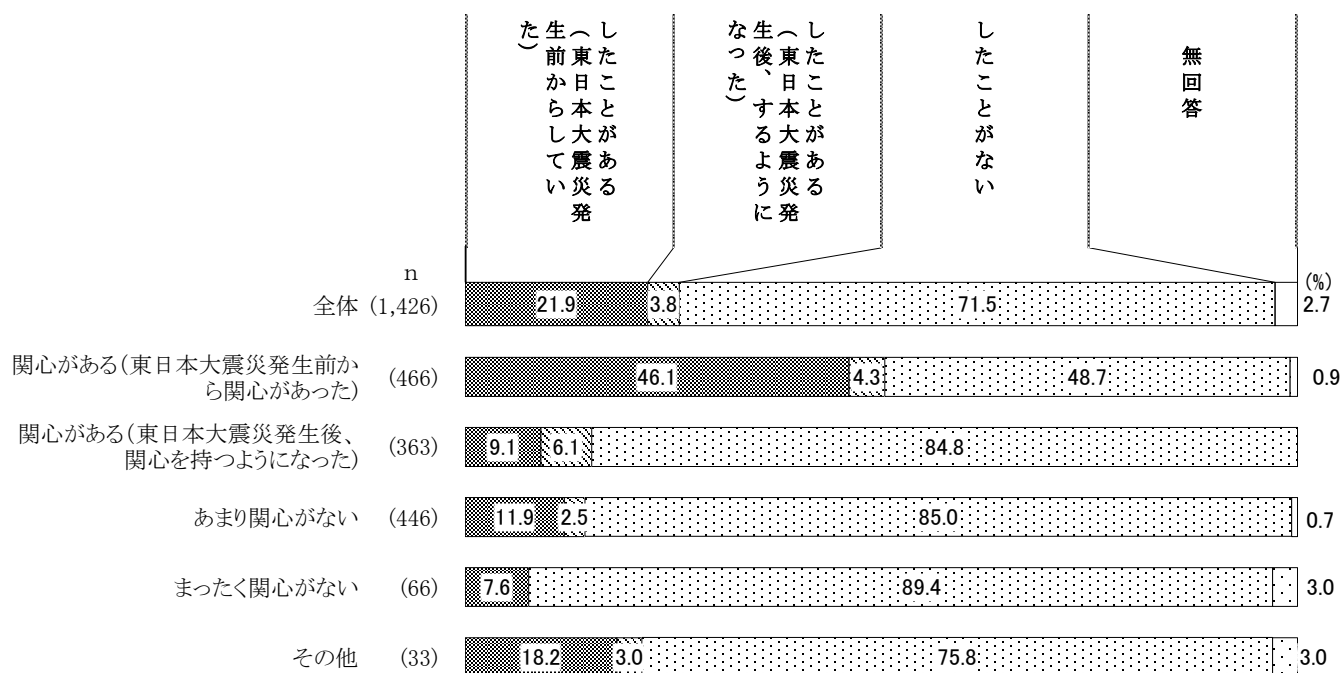
ボランティア活動の経験については、「しなかった」が71.5%と最も高く、次いで、「したことがある(東日本大震災発生前からしていた)」(21.9%)、「したことがある(東日本大震災発生後、するようになった)」(3.8%)の順となっている。

【図表63：年齢別／ボランティア活動の経験】



「したことがある(東日本大震災発生前からしていた)」と「したことがある(東日本大震災発生後、するようになった)」を合わせた『したことがある』を年齢別で見ると、10歳代(34.4%)と20歳代(35.7%)が高くなっている。

【図表64：ボランティア活動への関心の有無別／ボランティア活動の経験】



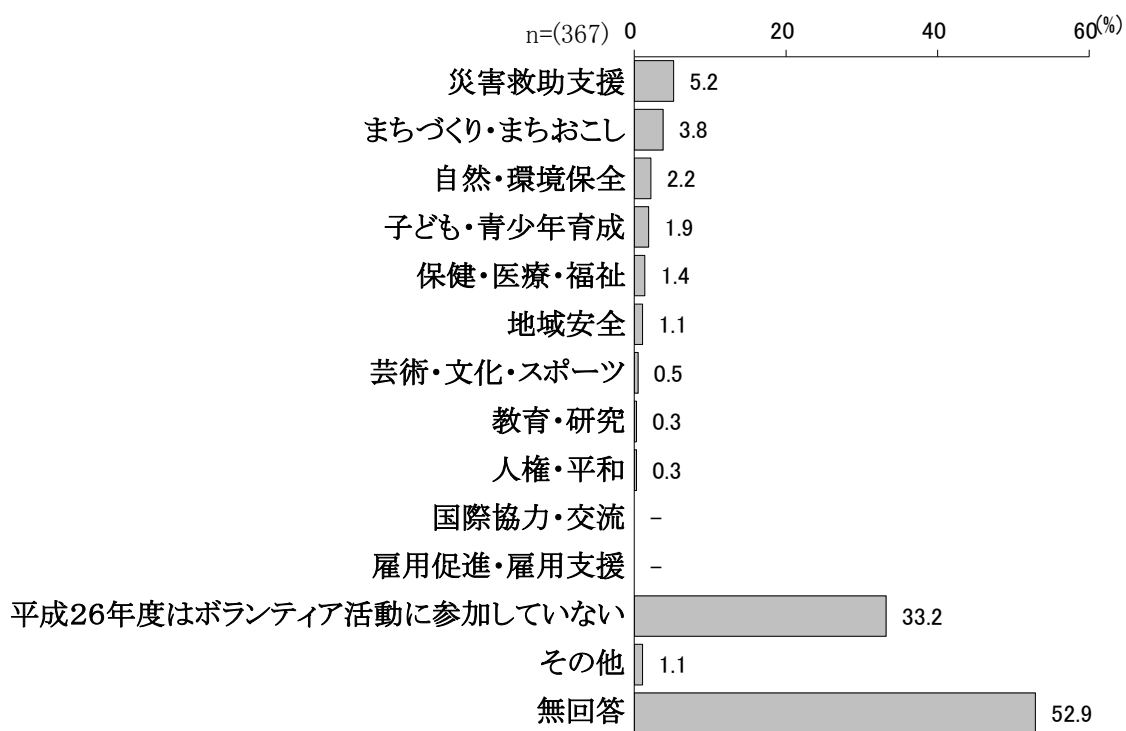
『したことがある』をボランティア活動への関心の有無別で見ると、「関心がある（東日本大震災発生前から関心があった）」が50.4%と最も高くなっている。次いで「関心がある（東日本大震災発生後、関心を持つようになった）」(15.2%)と「あまり関心がない」(14.4%)が1割台半ばとなっている。

(3) 平成26年度中に参加したことがあるボランティア活動

【問4-2で「1~2. したことがある」に○をつけた方にお聞きします】

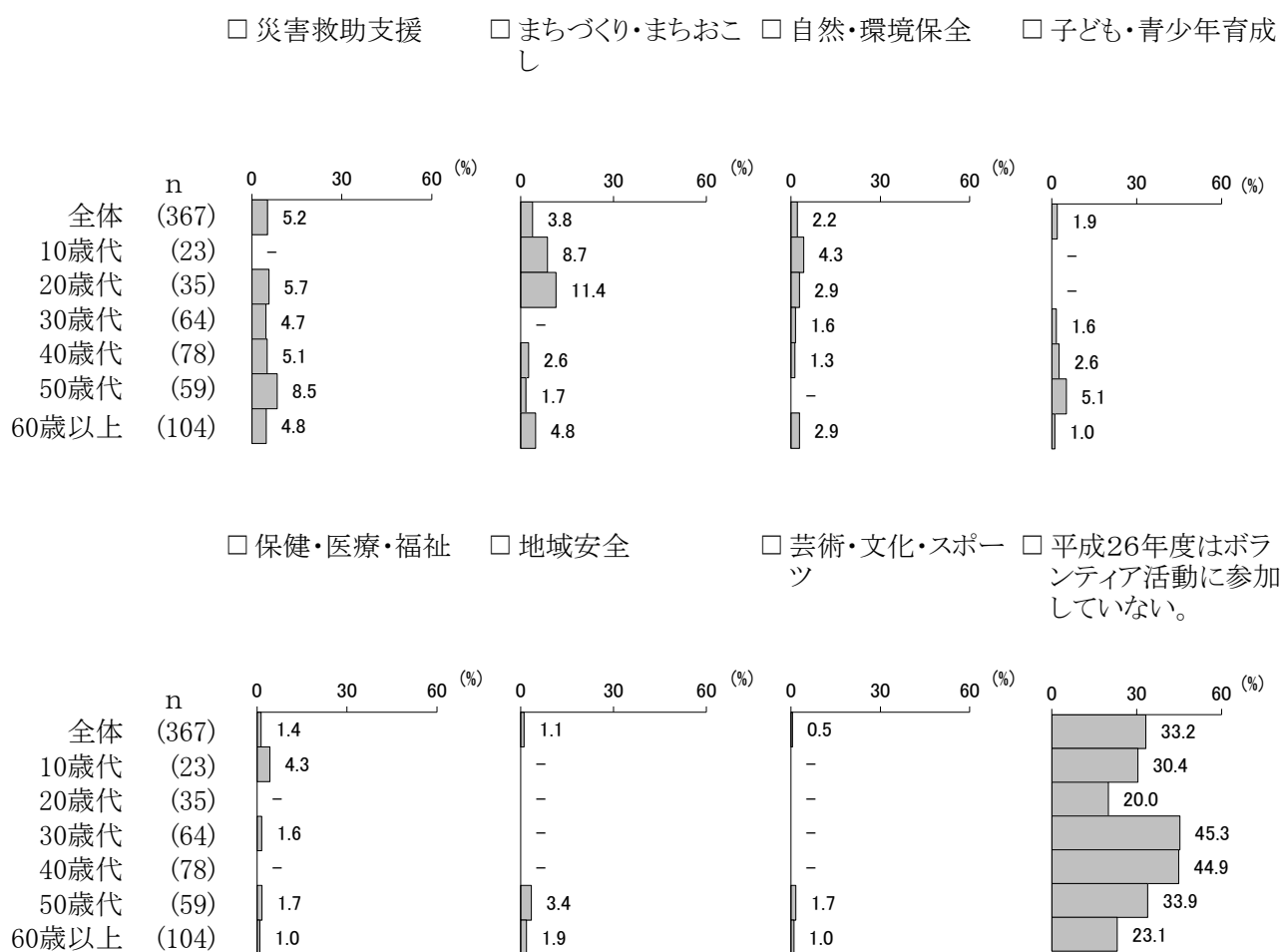
問4-3 あなたは平成26年度（平成26年4月～平成27年3月）にどのような分野のボランティア活動に参加したことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

【図表65：平成26年度中に参加したことがあるボランティア活動 ①震災関連】



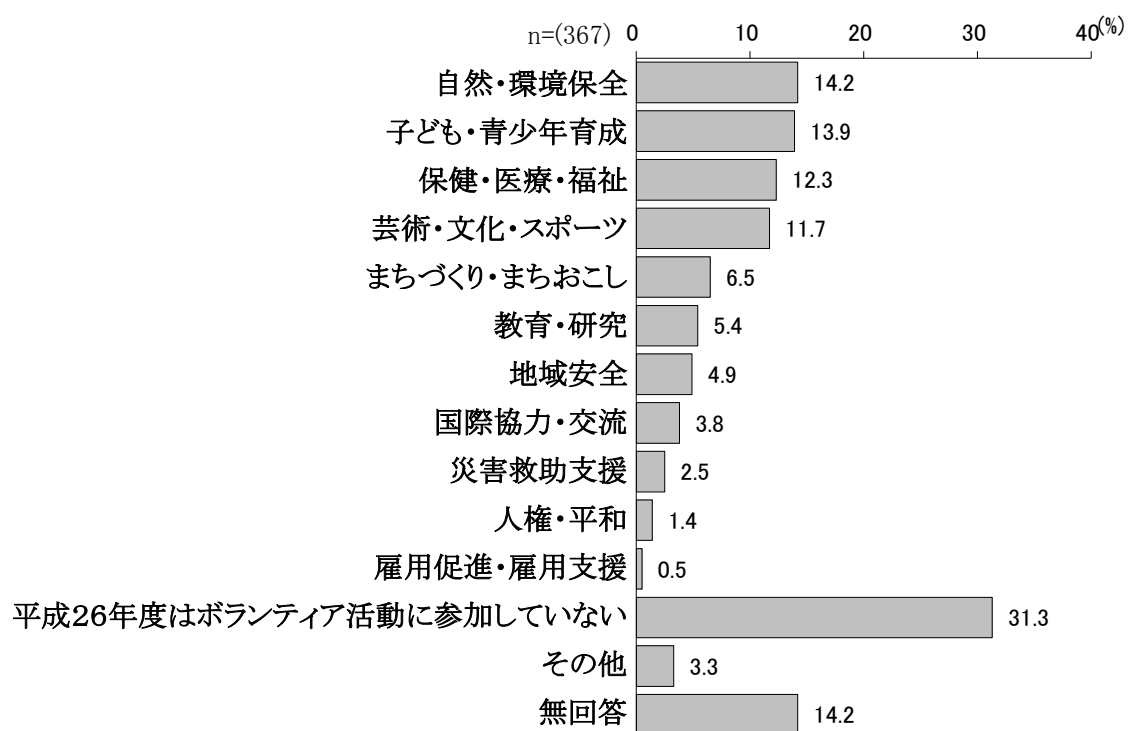
平成26年度中に参加したことがある震災関連のボランティア活動については、「災害救助支援」が5.2%と最も高く、次いで、「まちづくり・まちおこし」(3.8%)、「自然・環境保全」(2.2%)の順となっている。一方、「平成26年度はボランティア活動に参加していない」は33.2%となっている。

【図表66：年齢別／平成26年度中に参加したことがあるボランティア活動 ①震災関連】上位8項目



「災害救助支援」を年齢別で見ると、50歳代が8.5%と最も高くなっている。「まちづくり・まちおこし」は20歳代が11.4%と最も高くなっている。一方、「平成26年度はボランティア活動に参加していない」は30歳代（45.3%）、40歳代（44.9%）が4割台半ばと高くなっている。

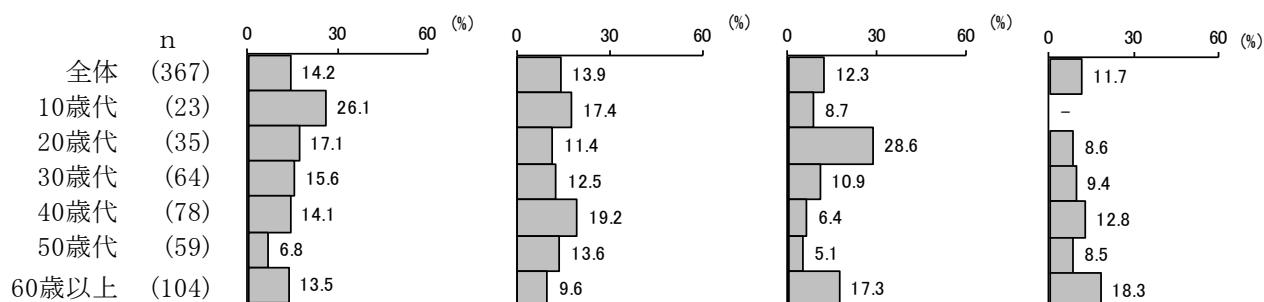
【図表67：平成26年度中に参加したことがあるボランティア活動 ②震災関連を除く】



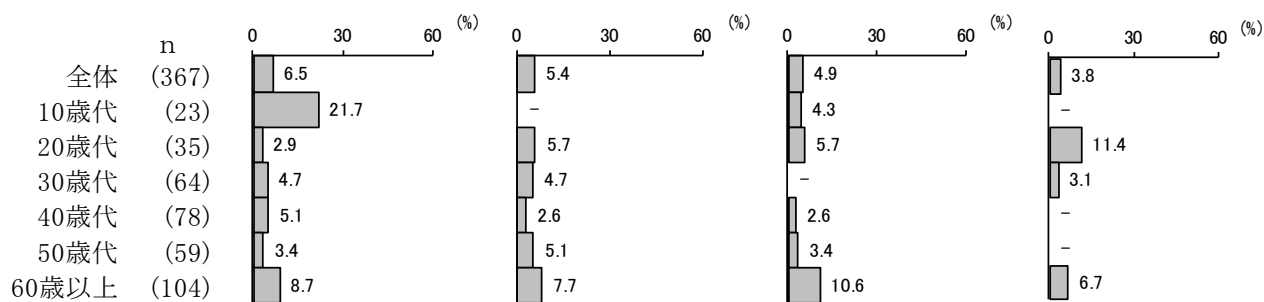
平成26年度中に参加したことがある震災関連以外のボランティア活動については、「自然・環境保全」が14.2%と最も高く、次いで、「子ども・青少年育成」(13.9%)、「保健・医療・福祉」(12.3%)の順となっている。一方、「平成26年度はボランティア活動に参加していない」は31.3%となっている。

【図表68：年齢別／平成26年度中に参加したことがあるボランティア活動 ②震災関連を除く】上位8項目

□ 自然・環境保全 □ 子ども・青少年育成 □ 保健・医療・福祉 □ 芸術・文化・スポーツ



□ まちづくり・まちおこし □ 教育・研究 □ 地域安全 □ 国際協力・交流



「自然・環境保全」を年齢別で見ると、50歳代を除いたすべての年代で1割台半ばとなっており、あまり大きな差はみられない。「子ども・青少年育成」は40歳代（19.2%）が2割弱と高くなっている。「保健・医療・福祉」は20歳代が28.6%と最も高くなっている。

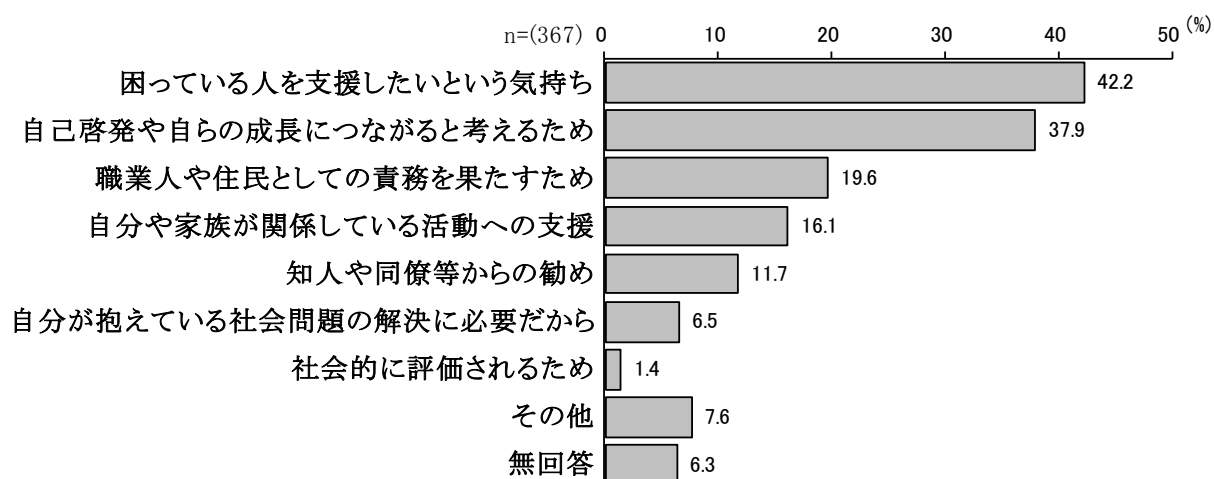
(4) ボランティア活動に参加する理由

【問4-2で「1~2. したことがある」に○をつけた方にお聞きします】

問4-4 あなたにとって、ボランティア活動に参加する理由は何ですか。

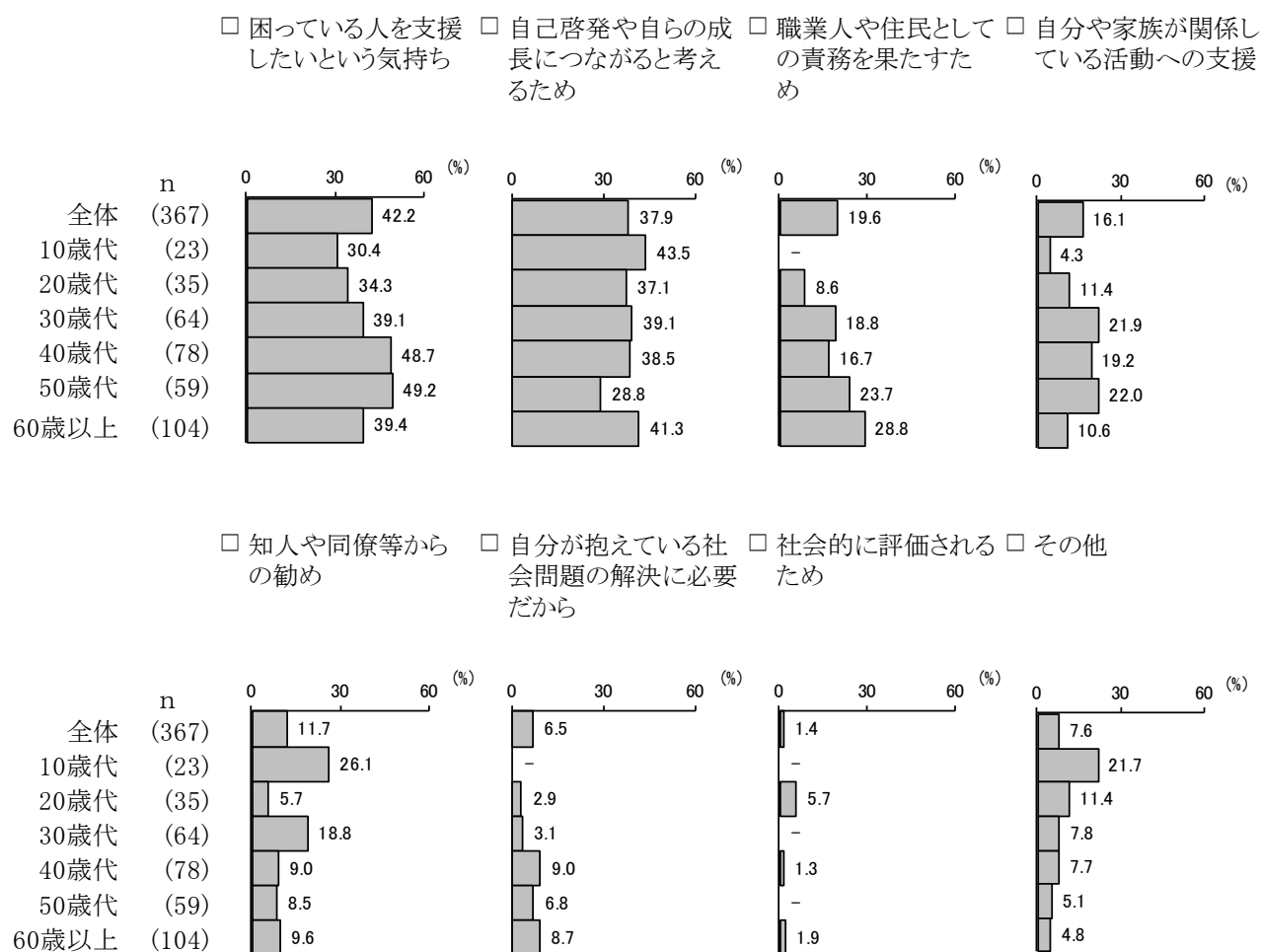
(あてはまるものすべてに○)

【図表69：ボランティア活動に参加する理由】



ボランティア活動に参加する理由については、「困っている人を支援したいという気持ち」が42.2%と最も高く、次いで、「自己啓発や自らの成長につながると考えるため」(37.9%)、「職業人や住民としての責務を果たすため」(19.6%)の順となっている。

【図表70：年齢別／ボランティア活動に参加する理由】上位8項目

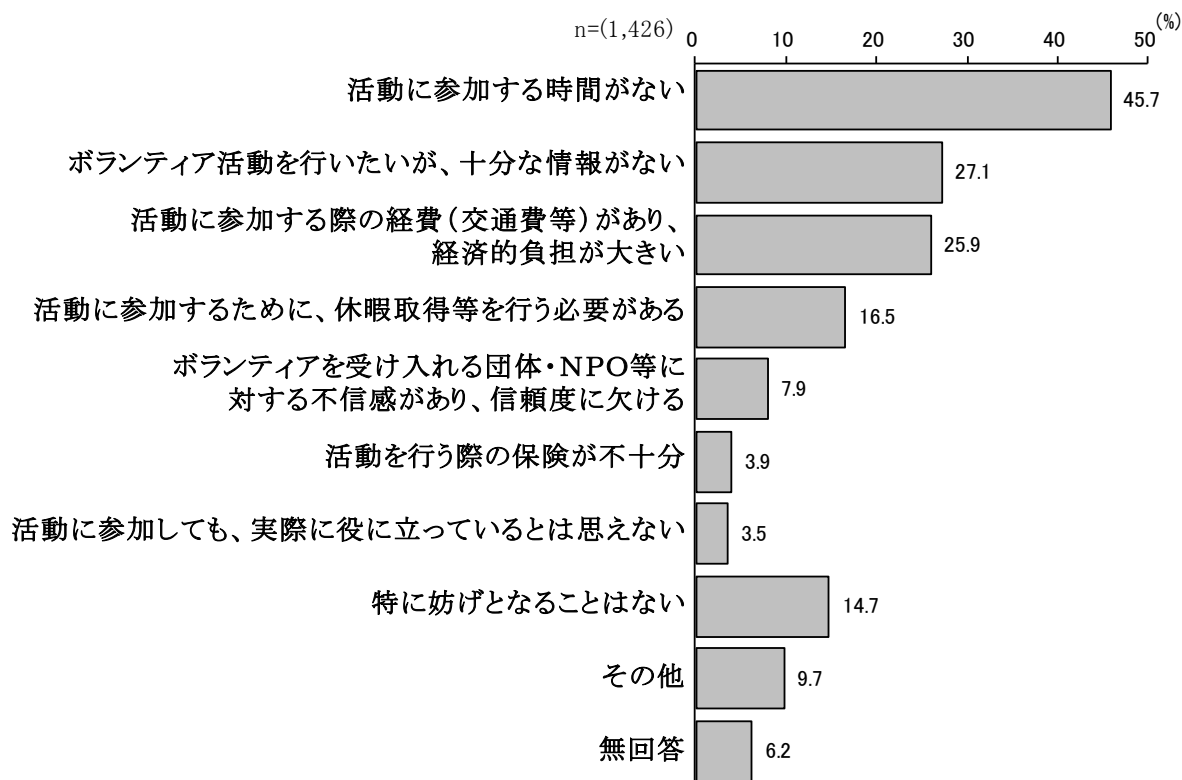


「困っている人を支援したいという気持ち」を年齢別で見ると、おおむね年代が上がるにつれて高くなっており、40歳代（48.7%）と50歳代（49.2%）が5割弱と高くなっている。「自己啓発や自らの成長につながると考えるため」は60歳以上が41.3%と最も高くなっており、次いで30歳代（39.1%）、40歳代（38.5%）、20歳代（37.1%）が4割弱となっている。「職業人や住民としての責務を果たすため」も同様の傾向がみられ、60歳以上が28.8%と最も高くなっている。

(5) ボランティア活動に参加することに妨げとなること

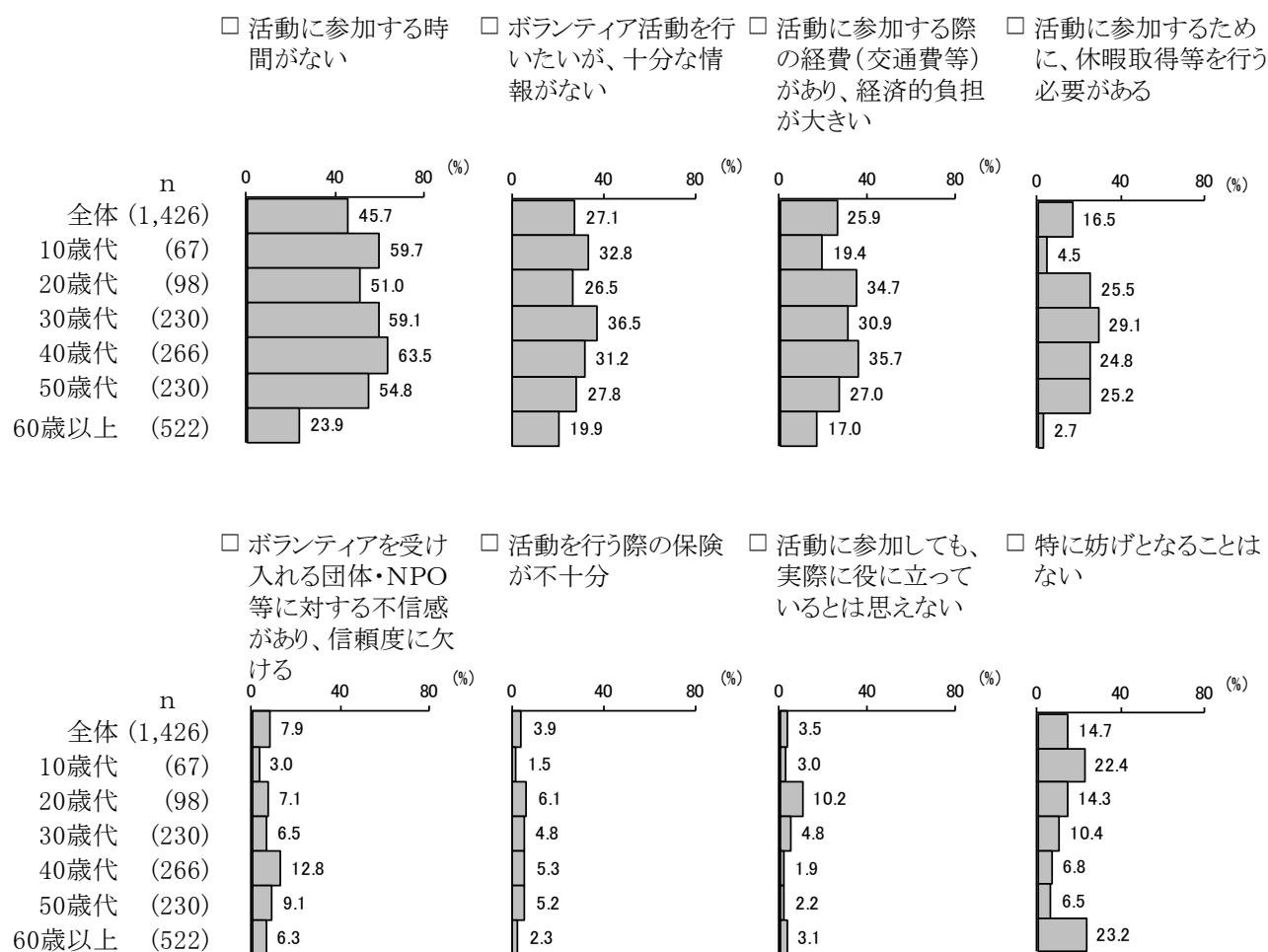
問4-5 ボランティア活動に参加することに妨げとなることはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

【図表71：ボランティア活動に参加することに妨げとなること】



ボランティア活動に参加することに妨げとなることについては、「活動に参加する時間がない」が45.7%と最も高く、次いで、「ボランティア活動を行いたい、十分な情報がない」(27.1%)、「活動に参加する際の経費(交通費等)があり、経済的負担が大きい」(25.9%)の順となっている。

【図表72：年齢別／ボランティア活動に参加することに妨げとなること】上位8項目

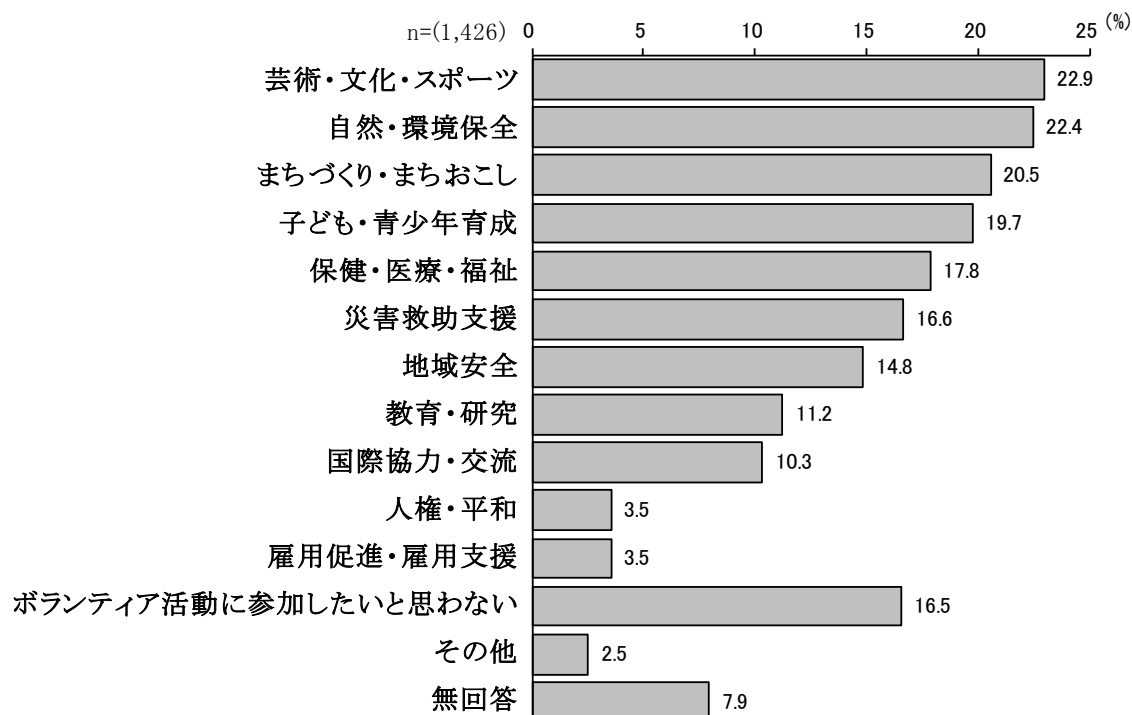


「活動に参加する時間がない」を年齢別で見ると、40歳代が63.5%と最も高くなっており、次いで、10歳代(59.7%)と30歳代(59.1%)が6割弱、50歳代(54.8%)と20歳代(51.0%)が5割を超えて高くなっている。「ボランティア活動を行いたい、十分な情報がない」は30歳代が36.5%と最も高くなっている。「活動に参加する際の経費(交通費等)があり、経済的負担が大きい」は20歳代(34.7%)と40歳代(35.7%)が3割台半ばと高くなっている。

(6) 今後参加したいボランティア活動の分野

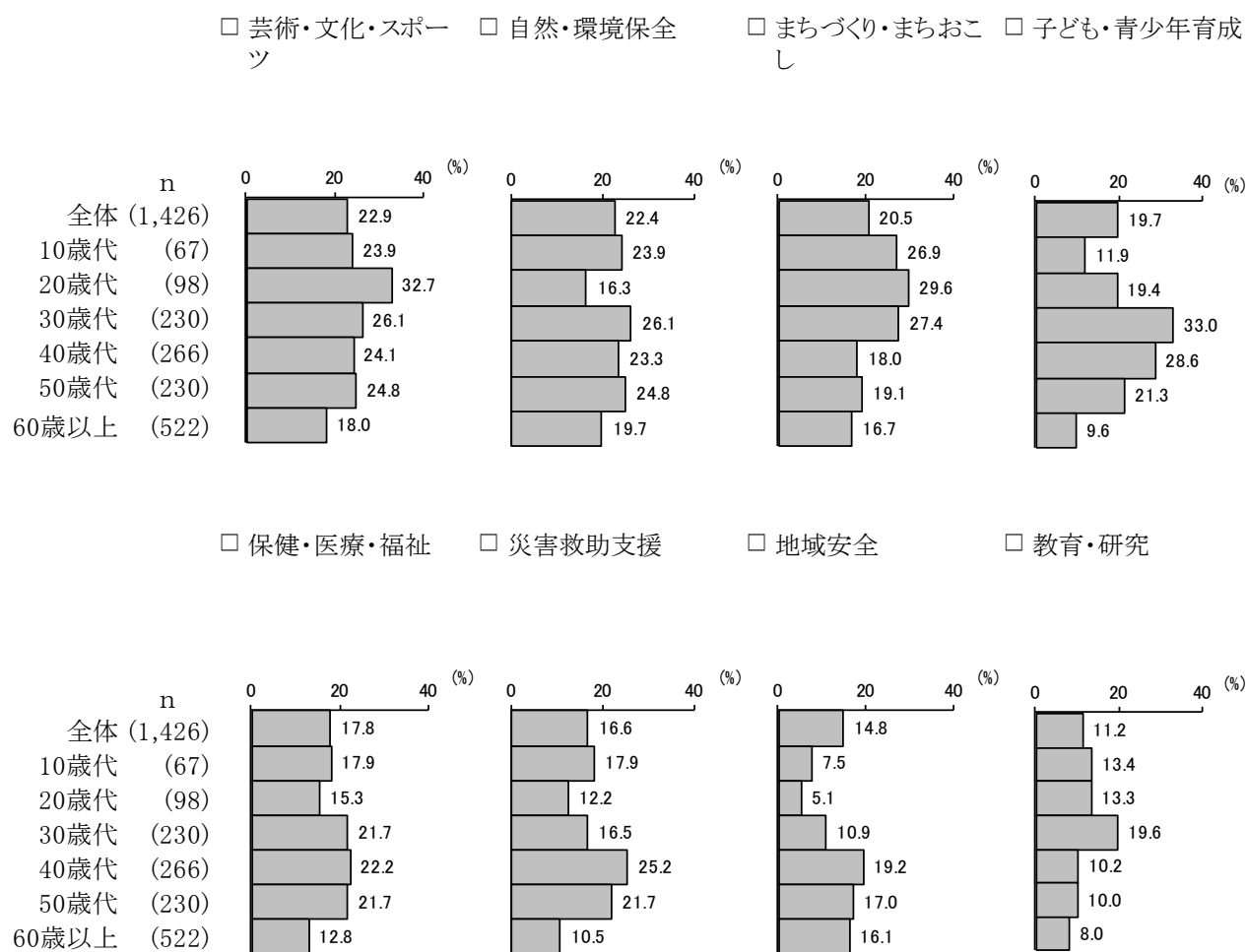
問4-6 あなたが今後参加したいボランティア活動の分野を選んでください。
(あてはまるものすべてに○)

【図表73：今後参加したいボランティア活動の分野】



今後参加したいボランティア活動の分野については、「芸術・文化・スポーツ」が22.9%と最も高く、次いで、「自然・環境保全」(22.4%)、「まちづくり・まちおこし」(20.5%)の順となっている。

【図表74：年齢別／今後参加したいボランティア活動の分野】上位8項目

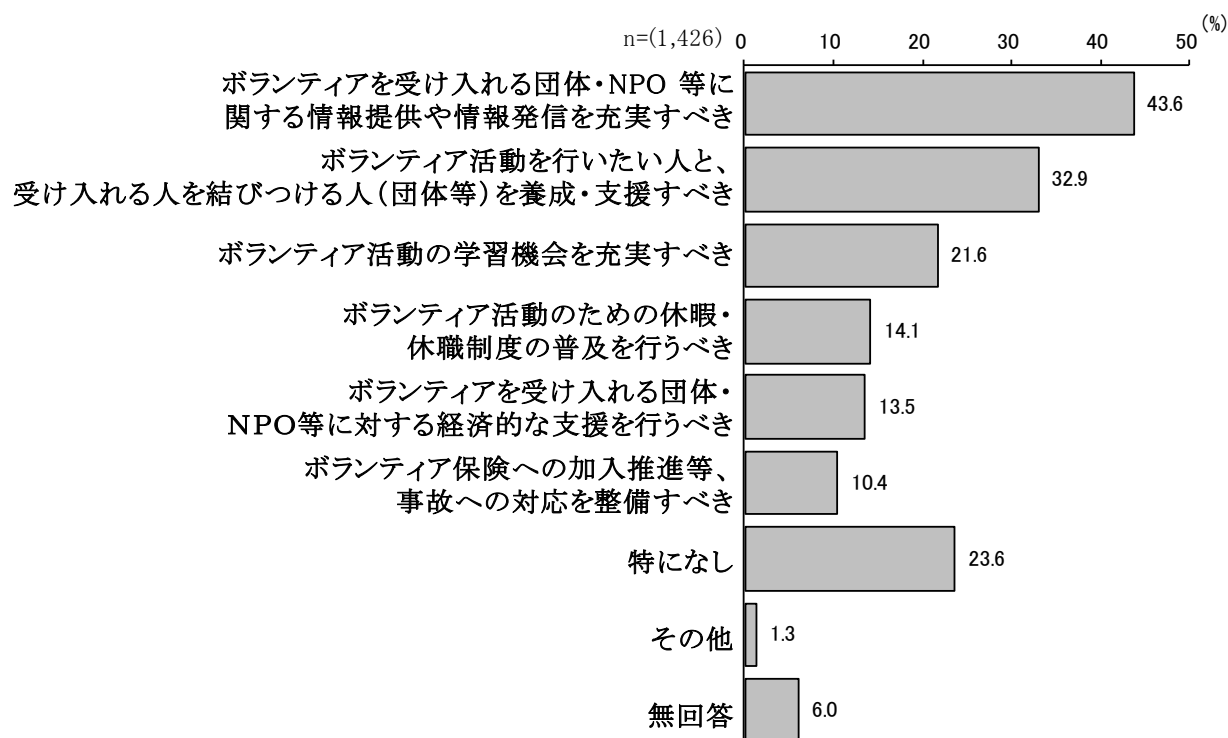


「芸術・文化・スポーツ」を年齢別で見ると、20歳代が32.7%と最も高くなっている。「自然・環境保全」は10歳代、30歳代、40歳代、50歳代が20%を超えて高くなっている。「まちづくり・まちおこし」はおおむね年代が上がるにつれ低くなっており、20歳代が29.6%と最も高くなっている。

(7) ボランティア活動について市に望むこと

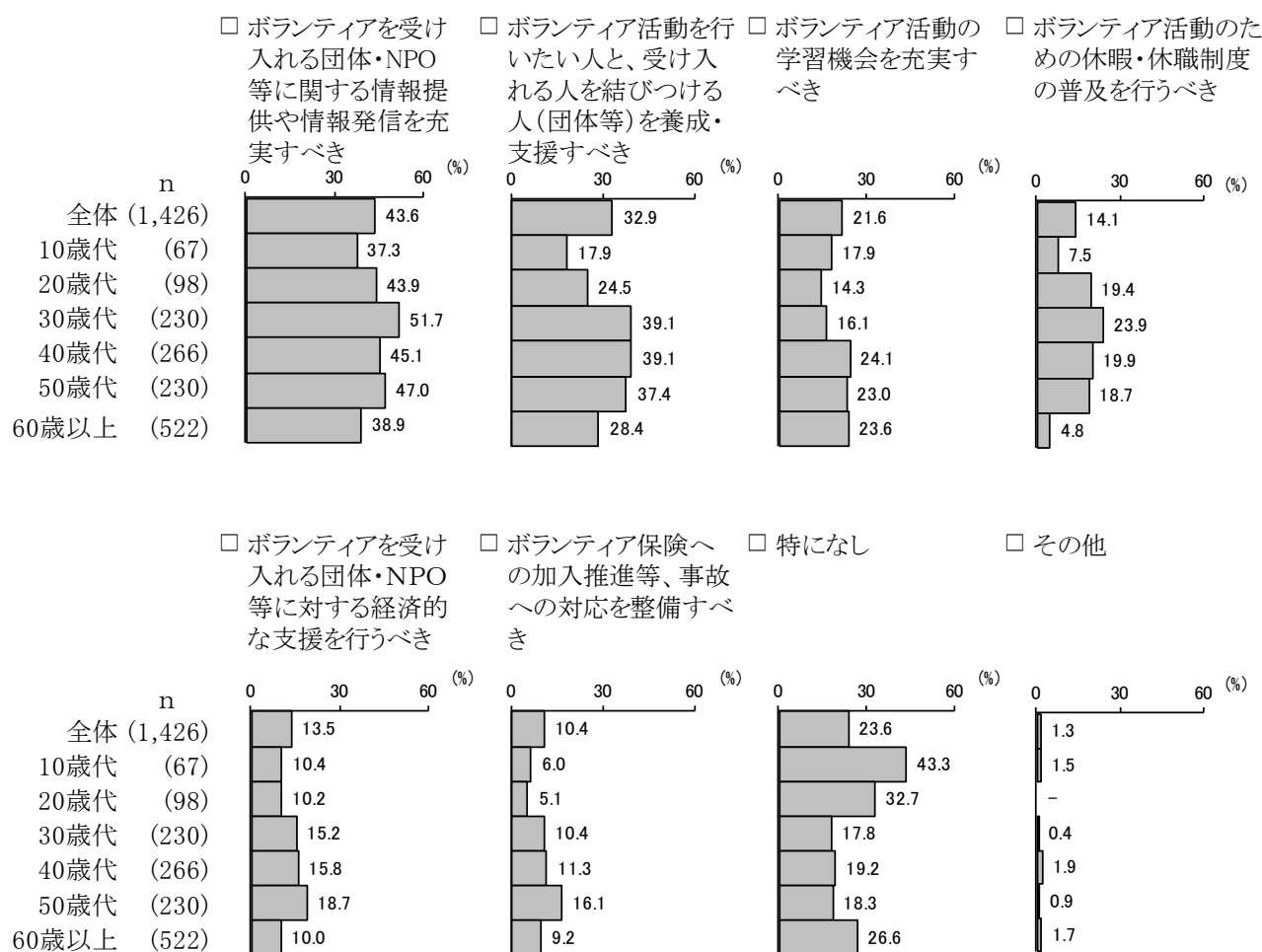
問4-7 ボランティア活動について、市にどのようなことを望みますか。
(あてはまるものすべてに○)

【図表75：ボランティア活動について市に望むこと】



ボランティア活動について市に望むことについては、「ボランティアを受け入れる団体・NPO等に関する情報提供や情報発信を充実すべき」が43.6%と最も高く、次いで、「ボランティア活動を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人(団体等)を養成・支援すべき」(32.9%)、「ボランティア活動の学習機会を充実すべき」(21.6%)の順となっている。

【図表76：年齢別／ボランティア活動について市に望むこと】上位8項目



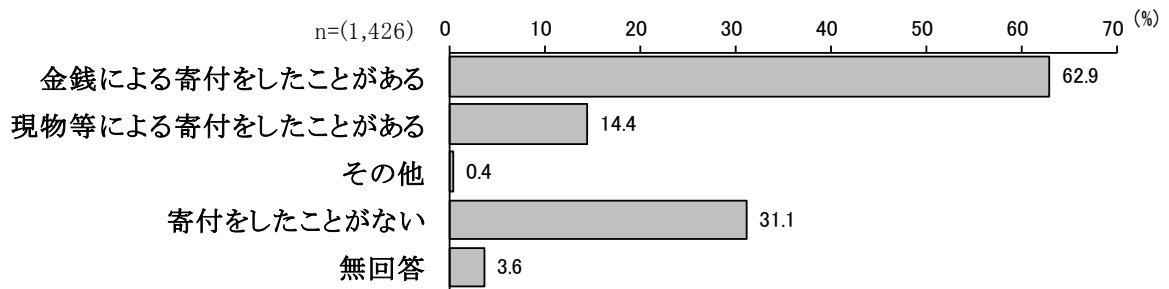
「ボランティアを受け入れる団体・NPO等に関する情報提供や情報発信を充実すべき」を年齢別で見ると、30歳代が51.7%と最も高くなっており、次いで50歳代(47.0%)、40歳代(45.1%)、20歳代(43.9%)が4割を超えて高くなっている。「ボランティア活動を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人(団体等)を養成・支援すべき」は30歳代と40歳代がともに39.1%と最も高くなっている。

5. 寄付について

(1) 寄付経験の有無

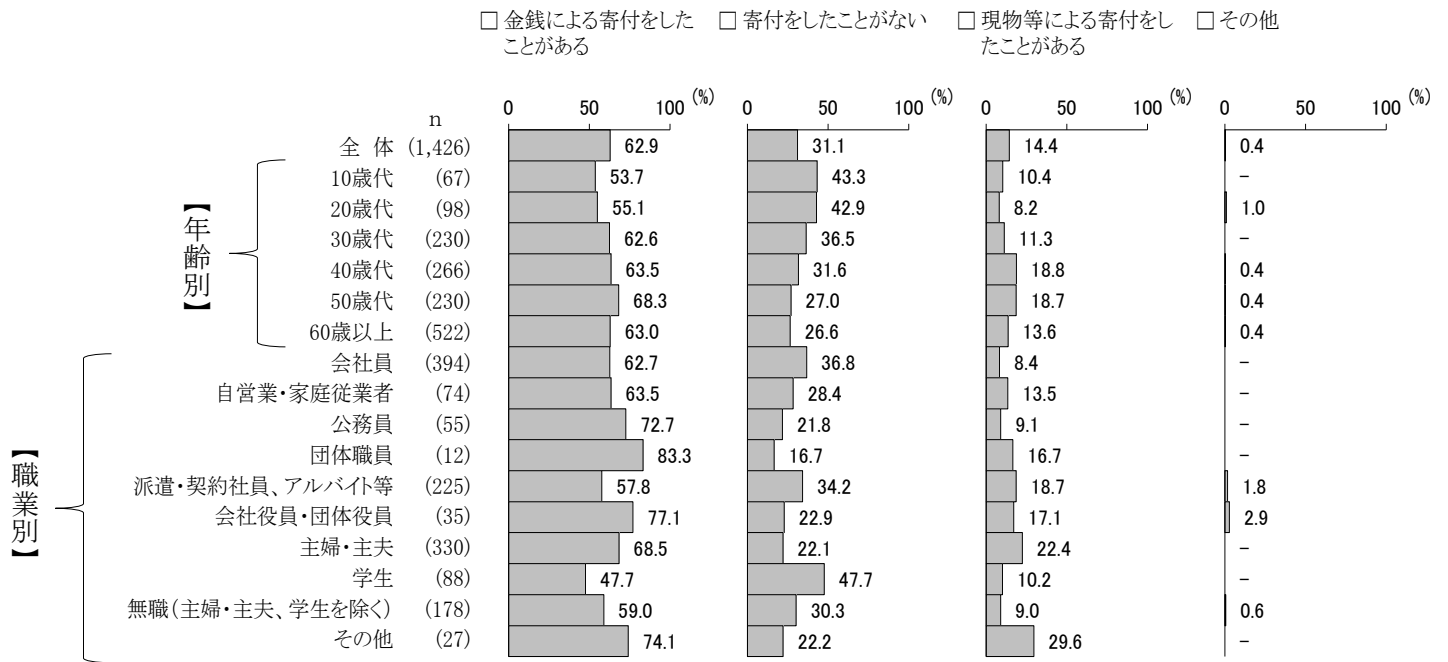
問5-1 あなたは寄付（募金、現物寄付等）をしたことがありますか。
（あてはまるものすべてに○）

【図表77：寄付経験の有無】



寄付経験の有無については、「金銭による寄付をしたことがある」が62.9%と最も高く、次いで、「寄付をしたことがない」(31.1%)、「現物等による寄付をしたことがある」(14.4%)の順となっている。

【図表78：年齢別・職業別／寄付経験の有無】



「金銭による寄付をしたことがある」を年齢別で見ると、おおむね年代が上がるにつれ高くなっており、50歳代で68.3%と最も高くなっている。一方、「寄付をしたことがない」は年代が上がるにつれ低くなっており、10歳代が43.3%と最も高くなっている。

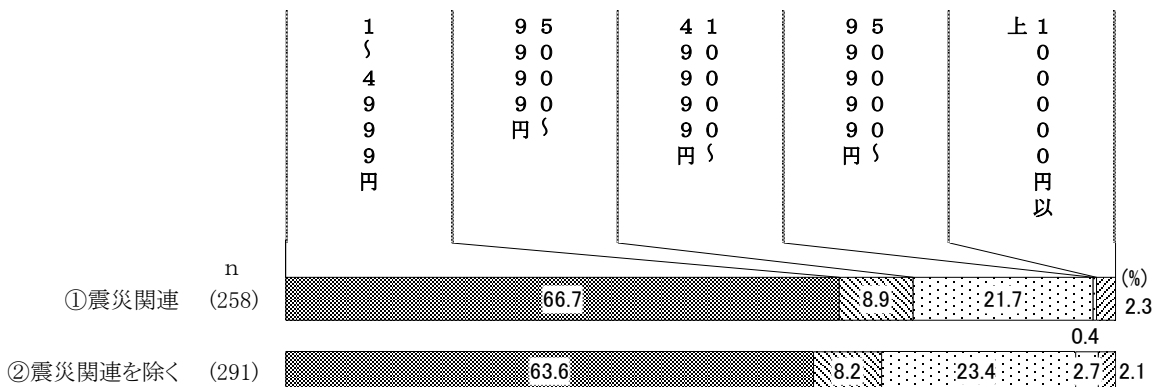
「金銭による寄付をしたことがある」を職業別で見ると、「公務員」(72.7%)と「会社役員・団体役員」(77.1%)が7割を超えて高くなっている。「寄付をしたことがない」は「学生」が47.7%と最も高くなっている。

(2) 平成26年度に寄付した金額、回数、現物を寄付した回数

【問5-1で「1~3. 寄付をしたことがある」に○をつけた方にお聞きします】

問5-2 平成26年度（平成26年4月~平成27年3月）に寄付をした金額（金銭による寄付のみ）、金銭による寄付をした回数、現物等による寄付をした回数をご記入ください。

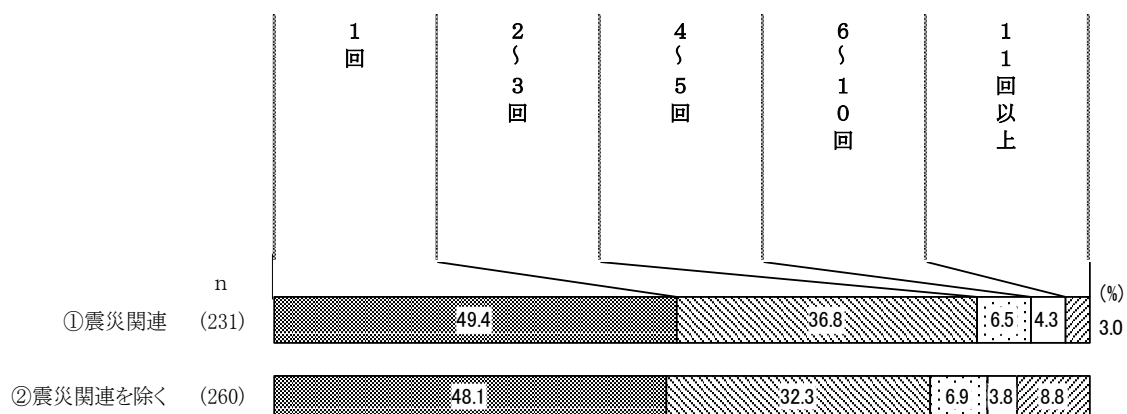
【図表79：あなたの年間寄付金額】



あなたの年間寄付金額については、震災関連において「1~4,999円」が66.7%と最も高く、次いで、「10,000~49,999円」(21.7%)、「5,000~9,999円」(8.9%)の順となっている。

一方、震災関連以外において「1~4,999円」が63.6%と最も高く、次いで、「10,000~49,999円」(23.4%)、「5,000~9,999円」(8.2%)の順となっている。

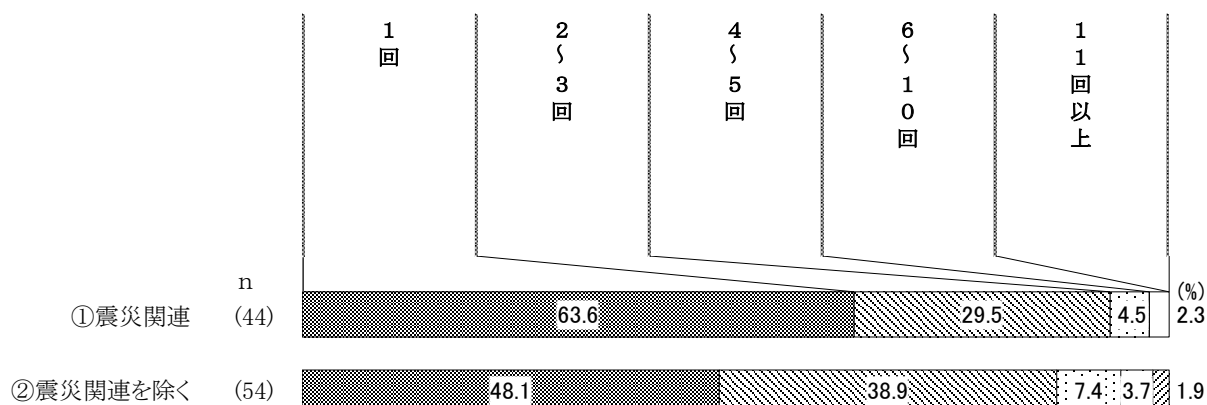
【図表80：あなたの年間金銭寄付回数】



年間金銭寄付回数については、震災関連において「1回」が49.4%と最も高く、次いで、「2~3回」(36.8%)、「4~5回」(6.5%)の順となっている。

一方、震災関連以外において「1回」が48.1%と最も高く、次いで、「2~3回」(32.3%)、「11回以上」(8.8%)の順となっている。

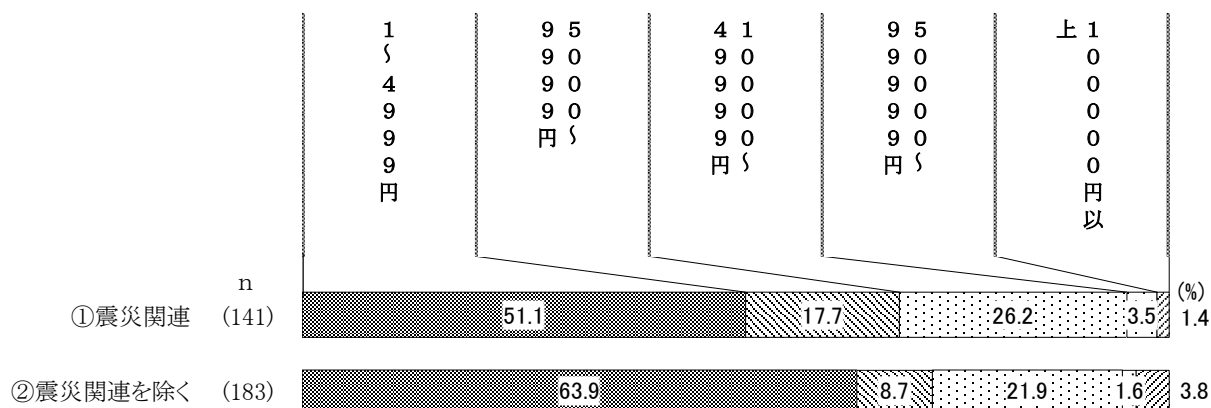
【図表81：あなたの年間現物等寄付回数】



年間現物等寄付回数については、震災関連において「1回」が63.6%と最も高く、次いで、「2～3回」(29.5%)、「4～5回」(4.5%)の順となっている。

一方、震災関連以外において「1回」が48.1%と最も高く、次いで、「2～3回」(38.9%)、「4～5回」(7.4%)の順となっている。

【図表82：世帯全体の年間寄付金額】



世帯全体の年間寄付金額については、震災関連において「1～4,999円」が51.1%と最も高く、次いで、「10,000～49,999円」(26.2%)、「5,000～9,999円」(17.7%)の順となっている。

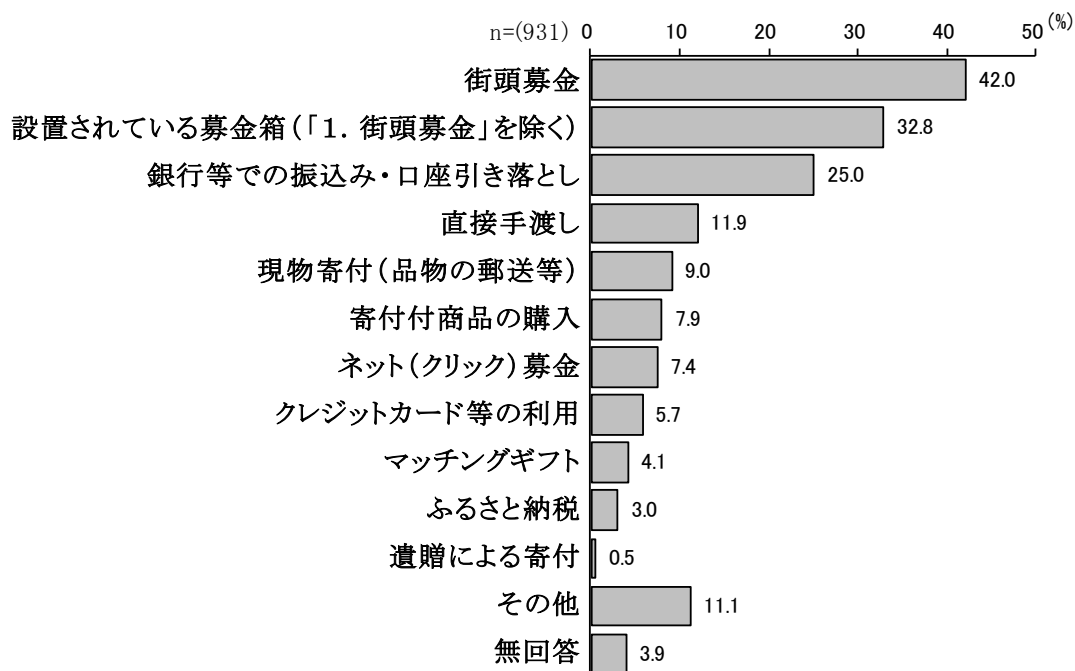
一方、震災関連以外において「1～4,999円」が63.9%と最も高く、次いで、「10,000～49,999円」(21.9%)、「5,000～9,999円」(8.7%)の順となっている。

(3) 寄付を行った方法

【問5-1で「1~3. 寄付をしたことがある」に○をつけた方にお聞きします】

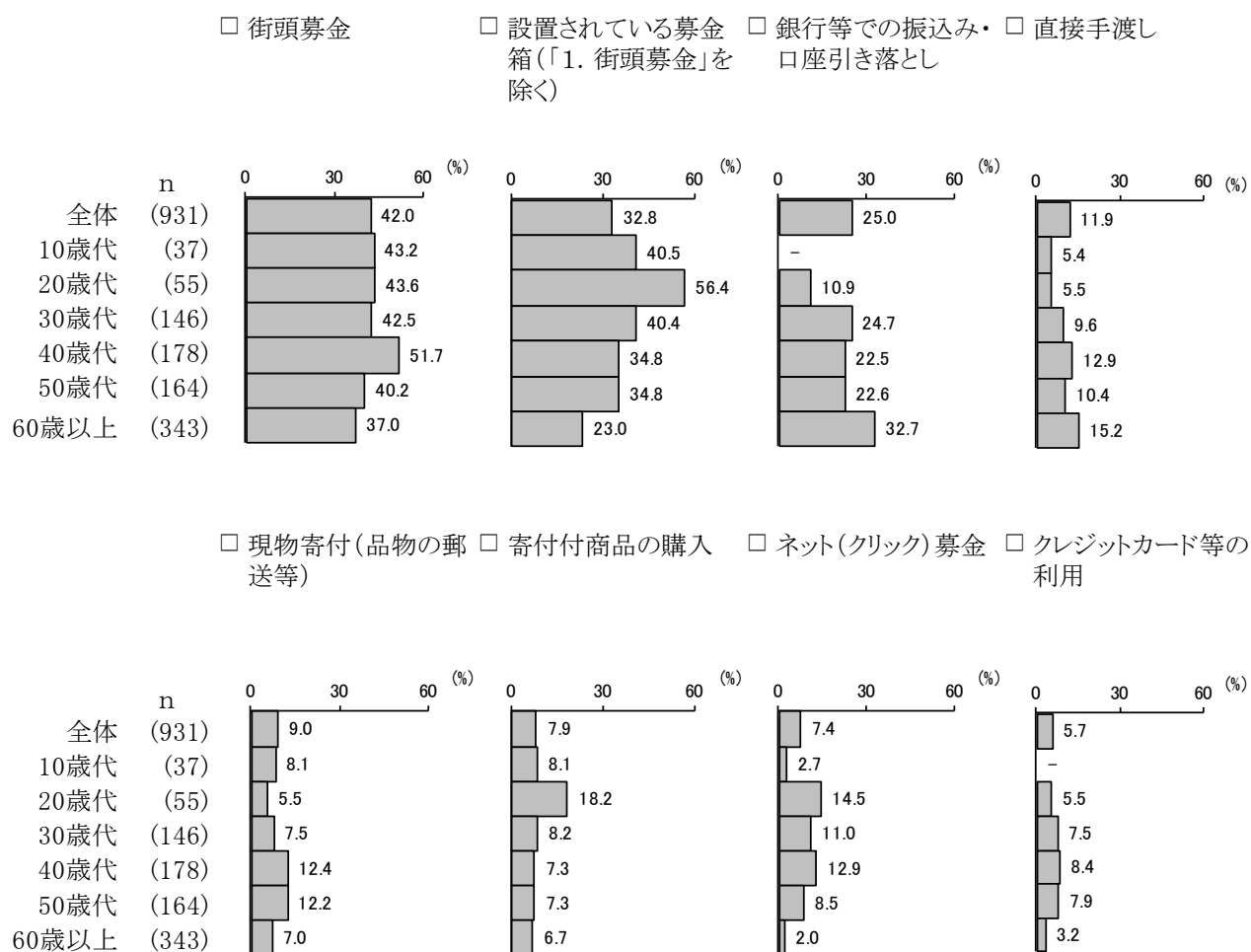
問5-3 あなたが、寄付を行った方法は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

【図表83：寄付を行った方法】



寄付を行った方法については、「街頭募金」が42.0%と最も高く、次いで、「設置されている募金箱(「1. 街頭募金」を除く)」(32.8%)、「銀行等での振込み・口座引き落とし」(25.0%)の順となっている。

【図表84：年齢別／寄付を行った方法】上位8項目



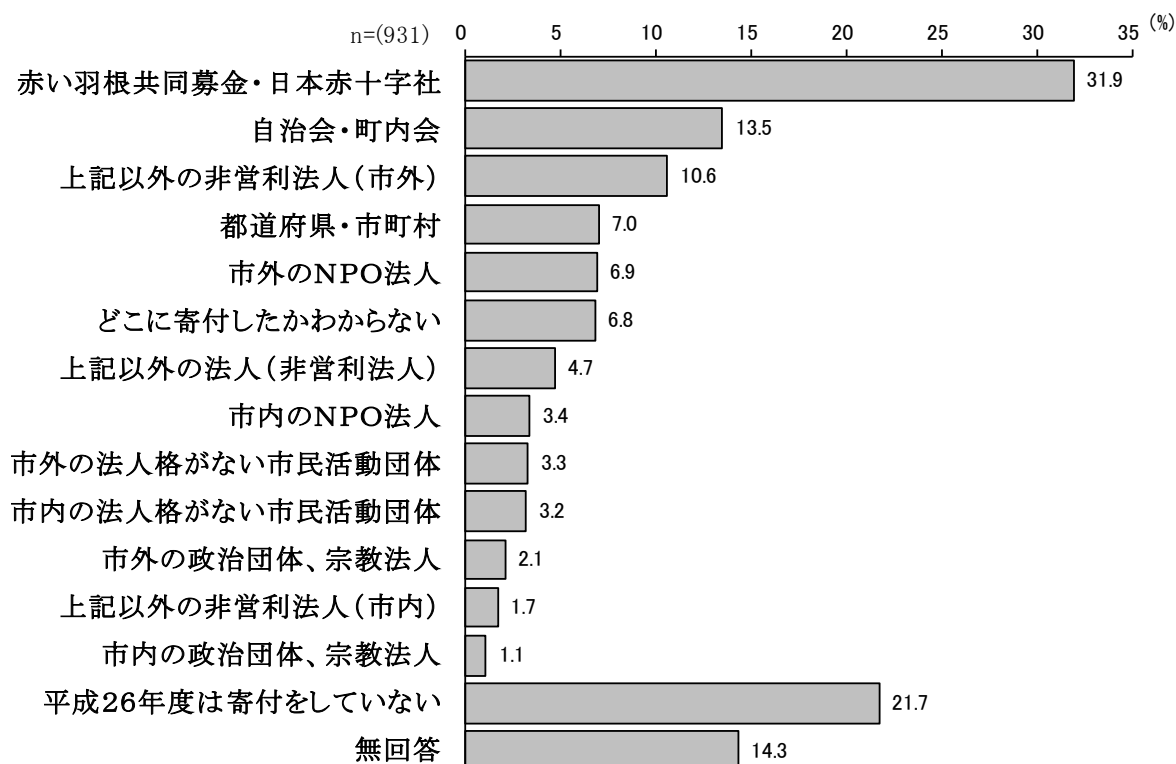
「街頭募金」を年齢別で見ると、40歳代が51.7%と最も高くなっており、そのほかにも60歳以上を除いたすべての年代が40%を超えて高くなっている。「設置されている募金箱(「1. 街頭募金」を除く)」は20歳代が56.4%と最も高くなっている。「銀行等での振込み・口座引き落とし」はおおむね年代が上がるにつれ高くなっており、60歳以上が32.7%で最も高い。

(4) 平成26年度に寄付をした団体

【問5-1で「1～3. 寄付をしたことがある」に○をつけた方にお聞きします】

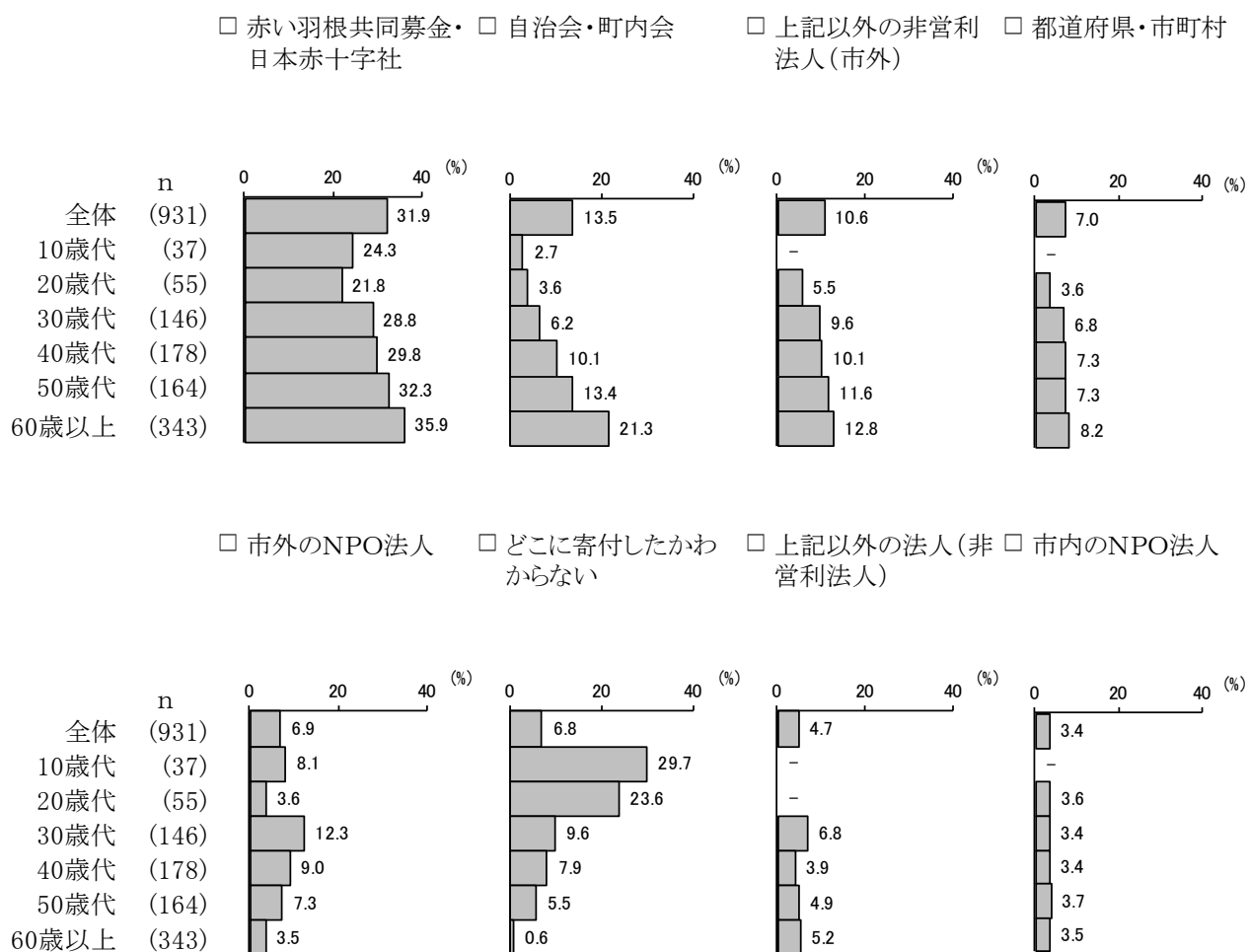
問5-4 あなたが、平成26年度（平成26年4月～平成27年3月）に寄付をした団体はどこですか。（あてはまるものすべてに○）

【図表85：平成26年度中に寄付をした団体】



平成26年度に寄付をした団体については、「赤い羽根共同募金・日本赤十字社」が31.9%と最も高く、次いで、「自治会・町内会」（13.5%）、「上記以外の非営利法人(市外）」（10.6%）の順となっている。一方、「平成26年度は寄付をしていない」は21.7%となっている。

【図表86：年齢別／平成26年度中に寄付をした団体】上位8項目



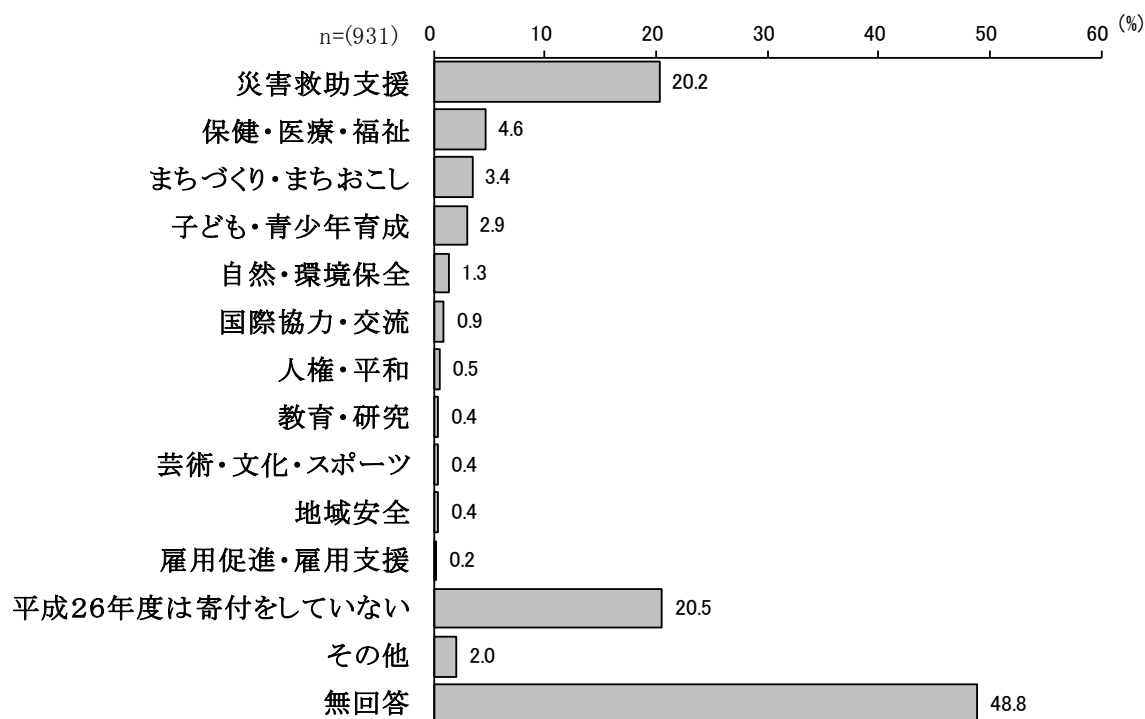
「赤い羽根共同募金・日本赤十字社」を年齢別で見ると、おおむね年代が上がるにつれて高くなっており、60歳以上が35.9%と最も高くなっている。「自治会・町内会」「上記以外の非営利法人(市外)」でも同様の傾向がみられ、それぞれ60歳以上が最も高くなっている。

(5) 平成26年度に寄付をした分野

【問5-1で「1~3. 寄付をしたことがある」に○をつけた方にお聞きします】

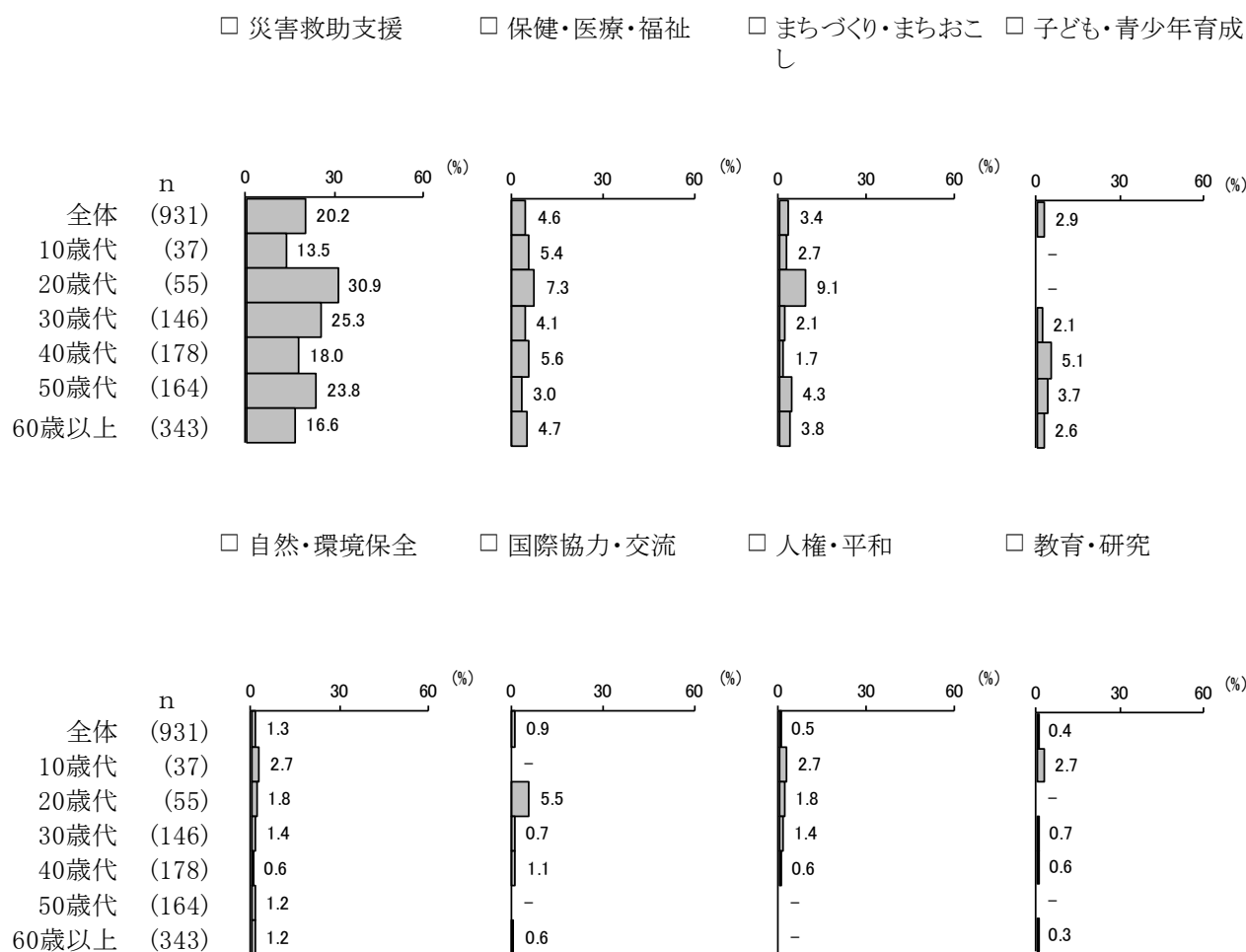
問5-5 あなたが、平成26年度（平成26年4月～平成27年3月）に寄付をした分野はどちらですか。（あてはまるものすべてに○）

【図表87：平成26年度中に寄付をした分野 ①震災関連】



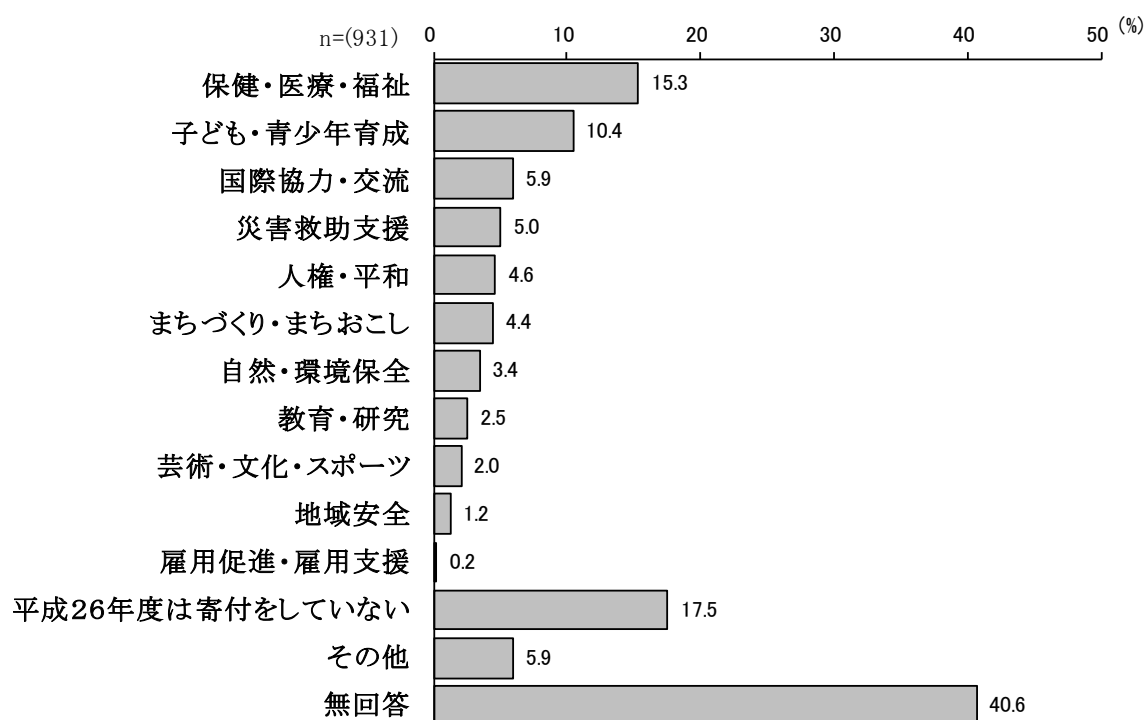
平成26年度に寄付をした震災関連分野については、「災害救助支援」が20.2%と最も高く、次いで、「保健・医療・福祉」(4.6%)、「まちづくり・まちおこし」(3.4%)の順となっている。一方、「平成26年度は寄付をしていない」は20.5%となっている。

【図表88：年齢別／平成26年度中に寄付をした分野 ①震災関連】上位8項目



「災害救助支援」を年齢別で見ると、20歳代が30.9%と最も高くなっており、次いで30歳代(25.3%)と50歳代(23.8%)が2割台半ばと高くなっている。「保健・医療・福祉」は年齢別であまり大きな差はみられない。「まちづくり・まちおこし」は20歳代が9.1%と最も高くなっている。

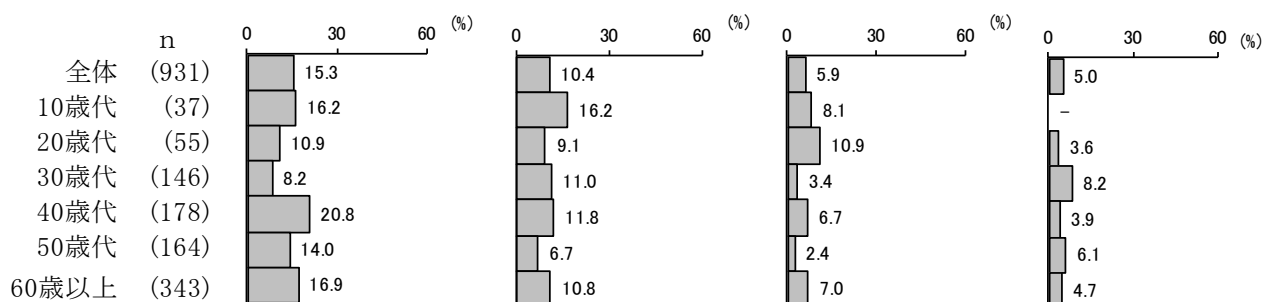
【図表89：平成26年度中に寄付をした分野 ②震災関連を除く】



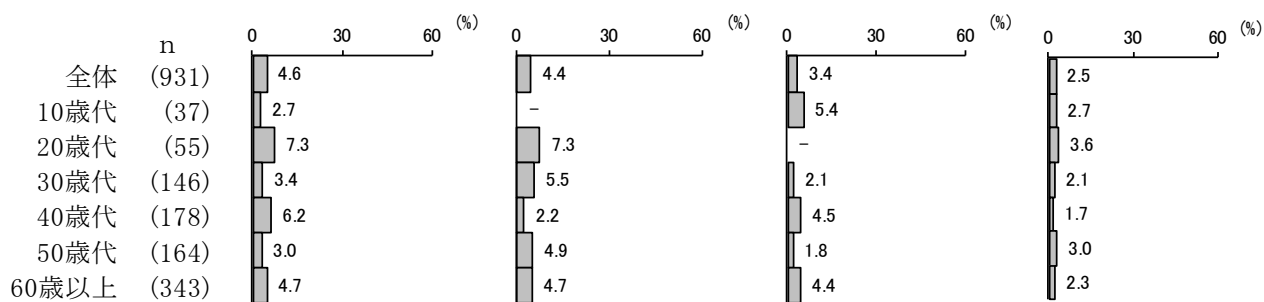
平成26年度に寄付をした震災関連以外の分野については、「保健・医療・福祉」が15.3%と最も高く、次いで、「子ども・青少年育成」(10.4%)、「国際協力・交流」(5.9%)の順となっている。一方、「平成26年度は寄付をしていない」は17.5%となっている。

【図表90：年齢別／平成26年度中に寄付をした分野 ②震災関連を除く】上位8項目

□ 保健・医療・福祉 □ 子ども・青少年育成 □ 国際協力・交流 □ 災害救助支援



□ 人権・平和 □ まちづくり・まちおこし □ 自然・環境保全 □ 教育・研究



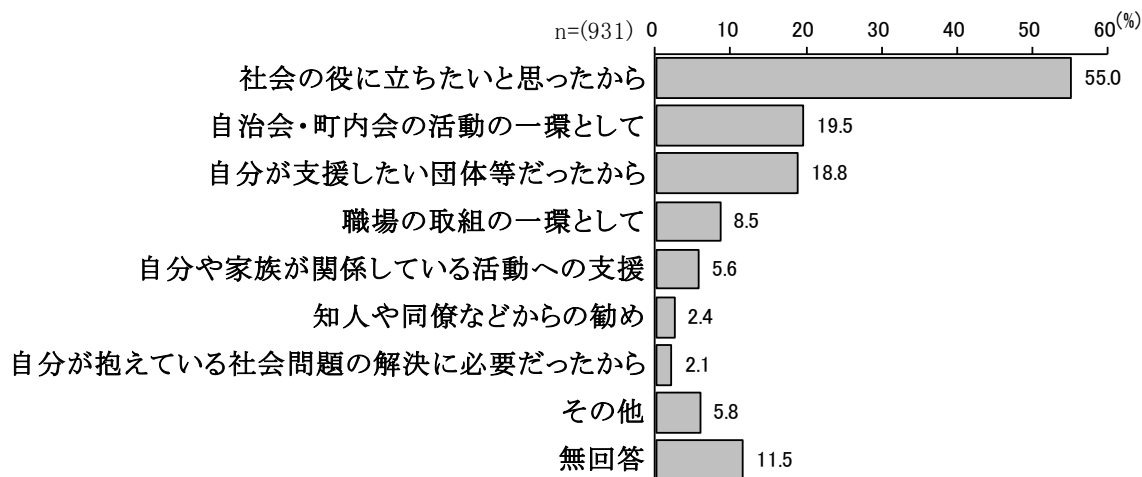
「保健・医療・福祉」を年齢別で見ると、40歳代が20.8%と最も高くなっており、次いで60歳以上（16.9%）と10歳代（16.2%）が1割台半ばとなっている。「子ども・青少年育成」は10歳代が16.2%と最も高くなっている。「国際協力・交流」は20歳代が10.9%と最も高くなっている。

(6) 寄付をした理由

【問5-1で「1~3. 寄付をしたことがある」に○をつけた方にお聞きします】

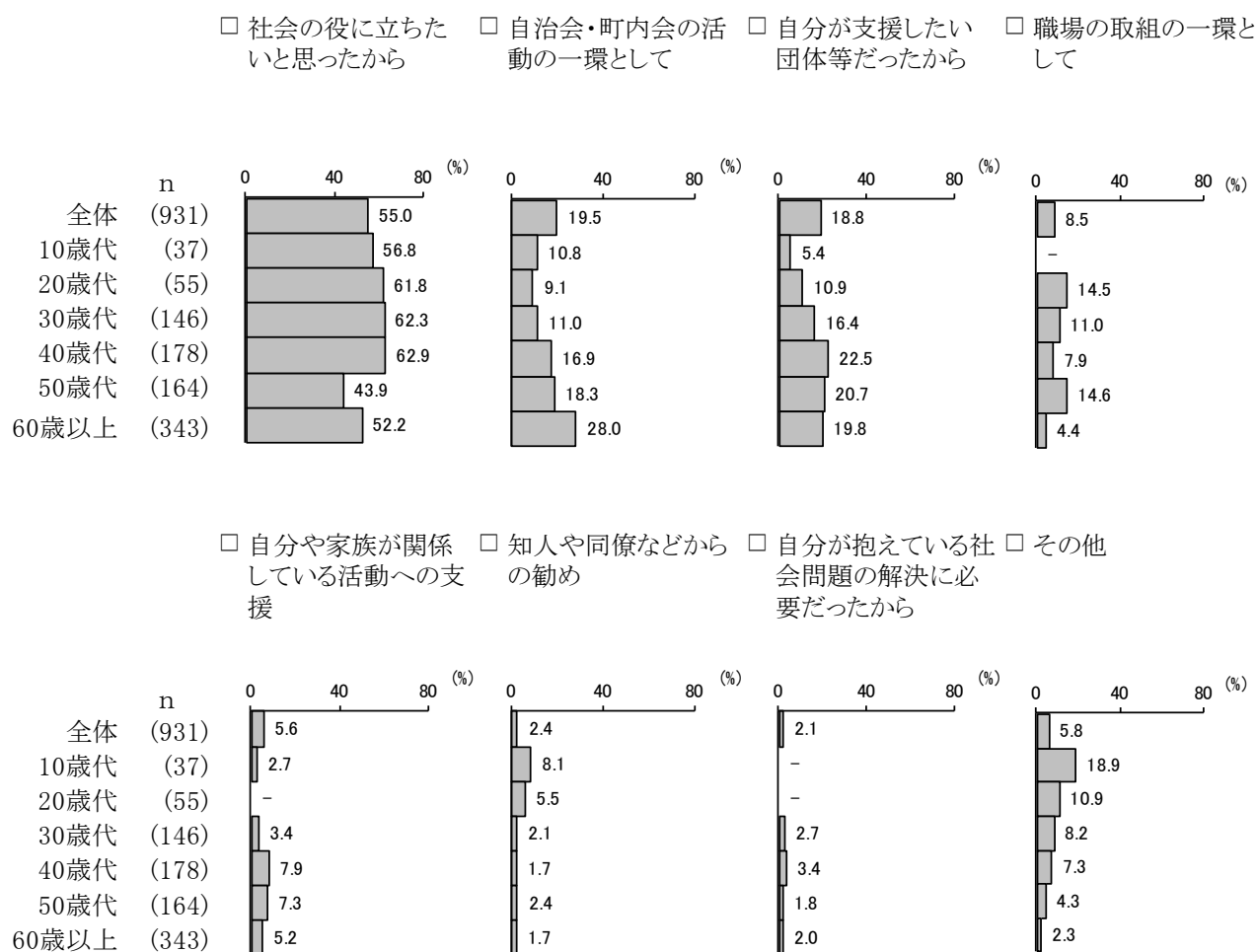
問5-6 あなたが寄付をした理由はどのようなものですか。(あてはまるものすべてに○)

【図表91：寄付をした理由】



寄付をした理由については、「社会の役に立ちたいと思ったから」が55.0%と最も高く、次いで、「自治会・町内会の活動の一環として」(19.5%)、「自分が支援したい団体等だったから」(18.8%)の順となっている。

【図表92：年齢別／寄付をした理由】上位8項目

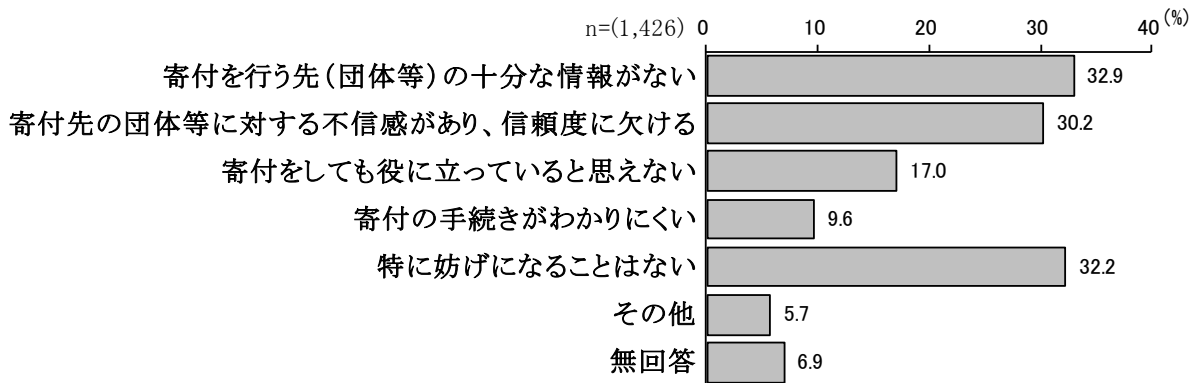


「社会の役に立ちたいと思ったから」を年齢別で見ると、20歳代（61.8%）、30歳代（62.3%）、40歳代（62.9%）が6割を超えて高くなっている。「自治会・町内会の活動の一環として」はおおむね年代が上がるにつれ高くなっている。

(7) 寄付をするにあたり妨げとなること

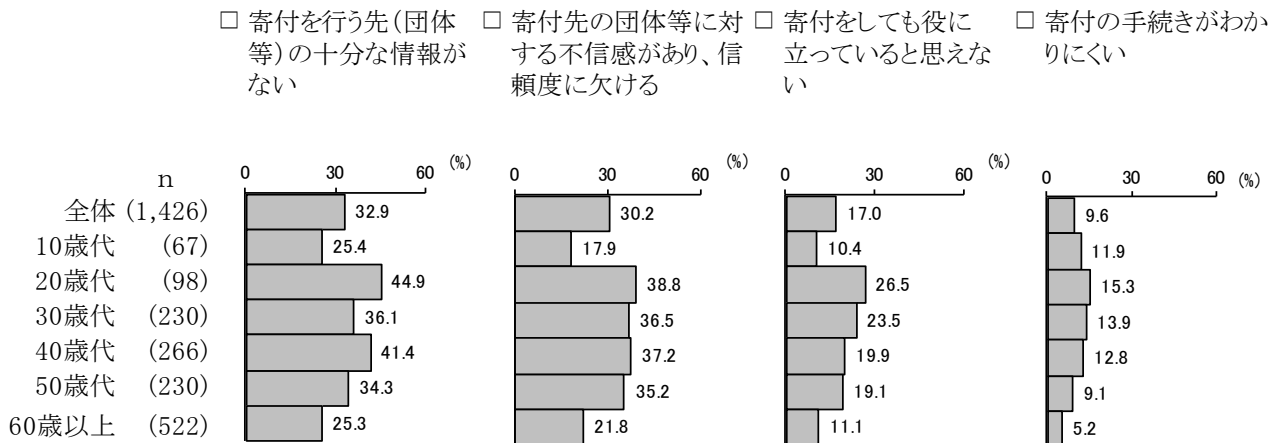
問5-7 あなたが寄付をするにあたり妨げになることはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

【図表93：寄付をするにあたり妨げとなること】



寄付をするにあたり妨げとなることについては、「寄付を行う先(団体等)の十分な情報がない」が32.9%と最も高く、次いで、「寄付先の団体等に対する不信感があり、信頼度に欠ける」(30.2%)、「寄付をしても役に立っていると思えない」(17.0%)の順となっている。一方、「特に妨げになることはない」は32.2%となっている。

【図表94：年齢別／寄付をするにあたり妨げとなること】

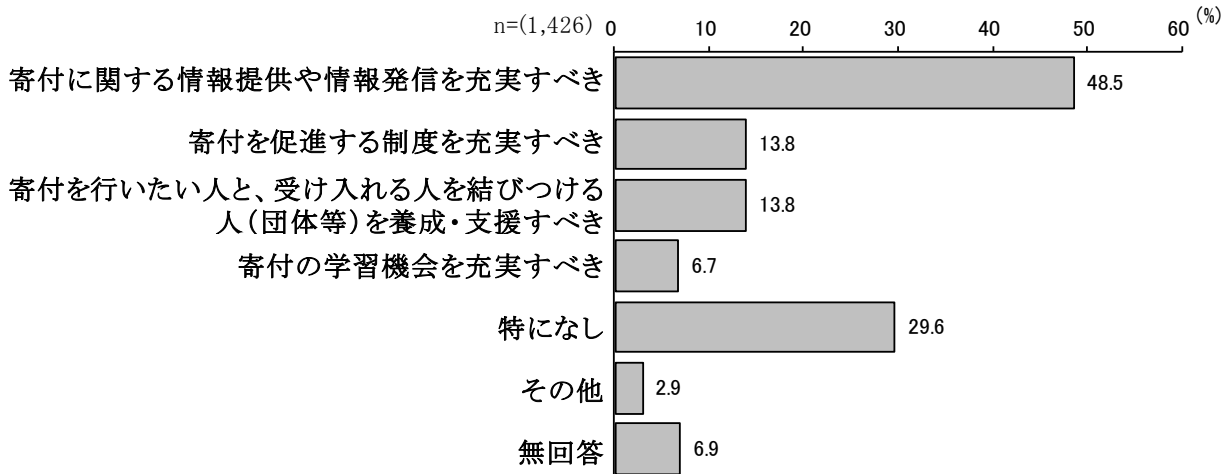


「寄付を行う先(団体等)の十分な情報がない」を年齢別でみると、20歳代(44.9%)と40歳代(41.4%)が4割を超えて高くなっている。「寄付先の団体等に対する不信感があり、信頼度に欠ける」は20～50歳代が35%を超えて高くなっている。「寄付をしても役に立っていると思えない」は10歳代を除き、年代が上がるにつれ低くなっている。

(8) 寄付促進のために市に望むこと

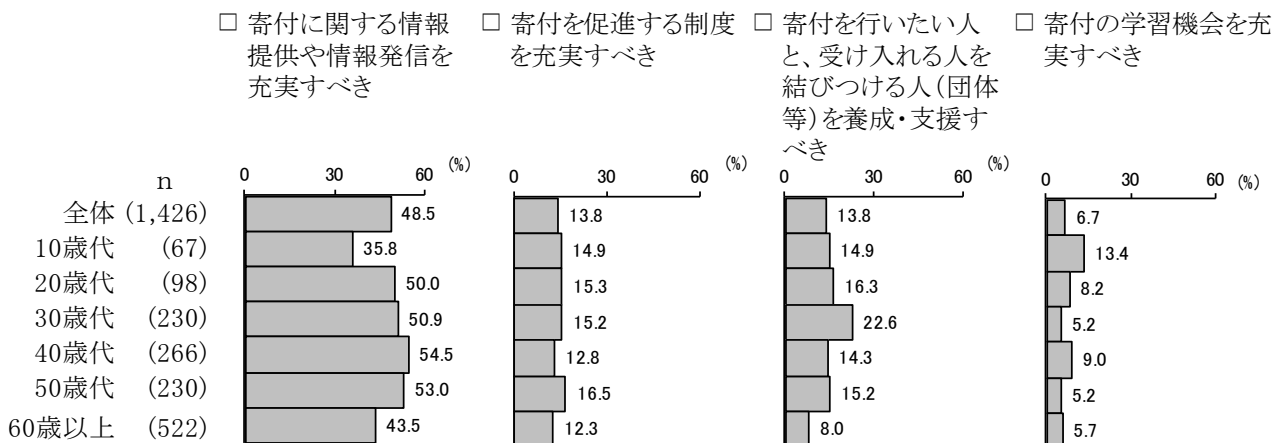
問5-8 寄付促進のために市にどのようなことを望みますか。
(あてはまるものすべてに○)

【図表95：寄付促進のために市に望むこと】



寄付促進のために市に望むことについては、「寄付に関する情報提供や情報発信を充実すべき」が48.5%と最も高く、次いで、「寄付を促進する制度を充実すべき」及び「寄付を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人(団体等)を養成・支援すべき」(13.8%)の順となっている。

【図表96：年齢別／寄付促進のために、市に望むこと】



「寄付に関する情報提供や情報発信を充実すべき」を年齢別でみると、20～50歳代が50%を超えて高くなっており、40歳代が54.5%と最も高くなっている。「寄付を促進する制度を充実すべき」は60歳以上を除いたすべての年代が10%を超えており、あまり大きな差はみられない。

6. その他

(1) 自由意見

問6 その他、何かご意見等がございましたらお書きください。

自由意見について、193人からの回答があった。回答の多かった内容は、「このアンケートについて」「市民活動・ボランティア活動について」「市民活動情報の発信について」の順であった。

内容	件数
このアンケートについて(例: アンケートに答えるのが難しい等)	42
市民活動・ボランティア活動について(例: ぜひとも参加したい、自分の生活で精一杯で参加出来ない等)	34
市民活動情報の発信について(例: 情報提供の充実等)	24
寄付金の流れについて(例: 募金がちゃんと使われているか等)	17
市政について(例: 職員の教育等)	16
まちづくりについて(例: 道路整備、町の施設の充実等)	15
児童施策について(例: 子ども向け支援の充実等)	12
藤沢市の財政について(例: 税金が高い等)	8
藤沢市の環境整備について(例: 樹木の管理等)	6
自治会・町内会活動について(例: 活動が苦痛等)	4
防犯について(例: 町の風紀、夜間の街灯)	4
市民のマナーの改善について(例: 犬のフン、外での喫煙等)	4
防災活動について(例: 防災訓練等)	3
その他	16

※1人で複数の記載内容があるため、合計の件数と回答者数は一致しない。